經典餘師

孟子二

七

口 11
1029
7

門口
號 1029
卷 7

孟子

朱喜集註

公孫丑章句上

公孫丑問曰夫子當路於齊管仲晏子之功可復許乎

公孫丑問て曰く夫子齊に當路せば管仲晏子の功を復すること可許乎

三井銀行

孟子の曰く子誠に小齊の管仲晏子を知已或人と曾西と尚て

經典餘師

公孫丑問曰夫子當路於齊管仲晏子之功可復許乎

公孫丑の問ふ夫子齊の國に當路して政務を執らるゝ如何なる功を立てゝ管仲晏子等に及ぶべきと夫子の齊の名を挙ぐるに當ては如何なる功を立てゝ管仲晏子等に及ぶべきと夫子の心に許すかとなり

孟子曰子誠齊人也知管仲晏子而已矣

御答に吾子は誠に齊の生れ人なるに有て管仲晏子を勝れ人と而已思ふや

或問

經典餘師 孟子 二 經典餘師

乎曾西曰吾子與子路孰賢曾西蹴然曰吾先子之所畏也曰然則吾子與管仲孰賢曾西艴然不悅曰爾何曾比予於管仲管仲得君如彼其專也行乎國政如彼其久也功烈如彼其卑也爾何曾比予於是

此段聖賢の徒ハたとへ世に名の聞こゆる人なりとても中正なる道を行うハざる者ハ尚とむべきことなしとの心ともとゞまりて吾子と子路と孰か賢るとの或人曾子の子の曾西によもしうして吾子と子路と孰か賢るやと問りまゝ曾西

曰管仲曾西之所不為也而子為我願之乎

曾西又孟子の語なり管仲ハ曾西も所不為なり願ハくハ有ゝてと

曰管仲以其君霸晏子以其君顯管仲晏子猶不足為與

公孫丑又曰く然ハ管仲晏子ハ君を霸者となし晏子ハ君を天下に顯ハすと為ざるやと

曰以齊王由反手也

御巻中くの事ハ齊を天下の王とするより反掌の事ハ手をうら反すよりも容易し

曰若是則弟子之惑滋甚且以文王之德百年而後崩猶未洽於天下武王周公繼之

四十年彼が如ハ專ら仁義を心ともとゞめて治ることを假りのなりまでを功烈の幹ともやなり

曰く管仲曾西の為不所なり而て子我為ようを願ハざるや

曰く管仲其君を以て霸たるに晏子其君を以て顯ハるに管仲晏子猶為ようを足不と與

曰く齊を以て王たるに手を反すより由ー

曰く是の若ハ則ち弟子の惑ひ滋く甚ー且文

王之徳を以て百年にして而して後に崩ず猶未だ天下に洽ねくんばあらざるなり周の興るや文王を維て然して後に大行今王若易然則文王不足法與（公孫丑又曰く若の時は不仁の心滋甚だ惑ひん如何となればこれ周の興るや文王の身聖人に在て百年にして崩ずるや天下へその威光御恵洽ざるはなし其の跡は武王周公の二聖人引つゞひて出ひ而後大行々と御威光そゝぐ心易こうんとなり今先生は齊の王となるは聖人文王も湯王も及ばざるに足ることを易が若しと言ふ然ば則ち文王は法とするに足不與曰文王何可當也由湯至於武丁（曰く文王何ぞ當可湯由武丁より至て賢聖之君六七作天下殷よ歸さること久しきは則ち変ずること難し武丁諸侯を朝し天下を有て之を掌を運らすが猶紂之武丁を去ること未だ久しからず其故家遺俗流風善政猶存る者又微子微仲王子比干箕子膠鬲皆賢人也相與輔之故久而後失之也尺地莫非其有也一民莫非其臣也然而文王猶方百里起是以難也（御設文王は至徳の聖人なり何ぞ双當らんやと云ふ所以あるべきなり周の起るは終に小所以にして賢明の王あり一人は聖人湯王より始まりこの王武丁に因て天下の人殷の世を戴き帰服するの勢なり其武丁の帝は中ごろ大徳にして諸侯を懐朝せしむる事掌中に物を運らすが如く心易かりしと武丁ようも紂王さえ不徳ならざれば間もなく紂王たらん不徳の故ここ家ごとの忠臣又は右聖人の遺俗風流善客猶この時に存てあり其人王の輔相となりて天下を失ふに及ばず漸く年紀て五人の賢人民もまる紂王の有てる時となるとやその中に

然ル而シテ文王猶方百里ヨリ起是ヲ以テ難シ

齊人言有リ曰ク知慧有ト雖モ勢ニ乘ニ如カ鎡基ニ雖モ待ツ時ニ如不今ノ時ハ則チ然シ易シ

夏后殷周之盛ナル地千里ヨリ過ル者有未而一ツ齊其地ヲ有雞鳴狗吠相聞テ四境ニ達而齊共民ヲ有地改メ辟不民改メ聚不仁政ヲ行ヒ而テ多ク四方の境まで家居つゞひて猶の吠こへ鷄の鳴ねとゝしぶ之を能禦ぐなうろうそ仁政ヲ施ス一ノミニ別ニ土地ヲ改ニ辟クニ及ハヒモマヽ自然ト權勢ヲ以テ民家ヲ此ノ人ニ聚メ而ル後ニ盛ナル殷周三代ノ敵國ニ當ラント且ツ王者トナラン者ハ禦ヒ侮ヲ救ヒ民ヲ虐ケ政ヲ除ク者也夏殷周三代ノ盛ナル時ニ當リ天下ノ人民ハ千里ヨリ過ル者有リト雖モ今齊ハ大國トイヒ其ノ人民

不如乘勢雖有鎡基不如待時今時

則易然也

齊ノ國ニテ常ノ言ニ諺ナラハ如何ナル知慧ニテモ勢ヒノ乘ザル内ハ仕方ニ鎡基アルトモ時節ヲ待ニシカズ其ノ時ハ王道ヲ行ナヒ人民ヲ致シ易キ時節トイフベシ

千里者也而齊有其地矣雞鳴狗吠相

聞而達乎四境而齊有其民矣地不改

辟矣民不改聚矣行仁政而王莫之能

禦也

夏殷周三代の后の盛なる地ハ千里ヨリ過ト今齊ハ大國といひそのう人民

行ふ而ニて王多く四方の境まで家居つゞひて猶の吠こへ鷄の鳴ねとゝしぶ之を能禦ぐなうろうそ仁政を施ス一ノミニ

且王者之作ラズ不未此時ニ有未民之虐政ニ憔悴セル未此時ニ

ようニ甚ダシキ者有未飢ル者ハ食ヲ為易シ渇セル者ハ飲ヲ為易シ

孔子曰ク德之流行置郵ニテ傳ヘヨウ速ヤカナリ

者也民之憔悴於虐政未有甚於此時

者也飢者易爲食渇者易爲飲

且ツ仁義の王者世ニ作ラザル事此時ヨウ疏ニシテ民ヲ虐ケサマナル事ハル一ツ政道ヨロシクシテ胸ヲ憔悴セルトモ今時ニ施ス一ツ仁義ヲ以テ人ヲ進メ口渇ケル人ニ水ヲ飲ス一ツノ誠ヲ以テ飢人ニ食ヲ

孔子曰德之流行速於置郵而傳

命

凡テ仁心ヲ施シテ其ノ德ノ流行スル速ナルニ置郵ヲ以テ民ノ歸服ス一易キヲタトヘラレテ

當今之時萬乘之國行仁政民之悅之倒懸解猶一時之然為公孫丑問曰夫子加齊之卿相得行道雖由此霸王不異矣如此則動心否孟子曰否我四十不動心

早さたようとなんぐ如一と聖人ものうつ

○公孫丑問曰夫子加齊之卿相得行道雖由此霸王不異矣如此則動心否孟子曰否我四十不動心

仁政民之悅之猶解倒懸也故事半古之人功必倍之惟此時為然

仁心を行ひ民の悅ぶと解倒のごとくなるゆゑに解倒とハ人を倒ふ懸下がるを解許となるゆゑに

當今の時ハ萬乘の大國

力の入やうハ右の人の行ふ其功ハ必て十倍するべし惟此時を然も半時節

公孫丑の問なるハ夫子ハ齊の卿相職を身に加へ行ふて政道を執行ハゞ此由天下の霸王とならるゝも

曰く是の如くんバ則ち夫子孟賁を過ること遠しと曰く是難うし不告子我より先ざること難うし

曰く心を動こうさ不ること道有乎曰く有

それハ異なり如山ふて心を惑ハしめ不の心を動こうさ我四十の比となり

孟賁ハ血気の勇者なるゆゑ孟賁よりハ告子ハ尚易しとなり

公孫丑又曰く今夫子の詞の如くなるハ誠よ孟賁を遠く過ぎり孟賁ハ血気の勇者なるゆゑ孟賁よりハ告子ハ尚易しとなり孟子の御答ハ是難し

孟子を賛ぬるぞ告子より我よろ先心を動さゞること

貴遠賤昌是不難告子先我不動心曰若是則夫子過孟賁遠矣曰不動心有道乎曰有

公孫丑まさに曰く心を動さぬるハ道のあるものにや主とまるりのあるハそれへやく付よりて動ざるりのハ何ぞ一心よ我その例をのべ

北宮黝之養勇也不膚撓不目逃思以一毫挫於人若撻之於市

北宮黝之勇を養なふ膚撓まず不目逃ろう不思一毫とゆく人よ挫ろう

一わらうを市朝に搏つ者なし褐寛博を受不亦萬乘之君を受不萬乘之君を刺を視ること褐夫を刺すが若し諸侯を厳ること無し悪聲至れば必ず之を反さん

孟施舎之勇を養なふ所曰く勝不を視て勝つに先んじ敵を量て而して後に進む勝つと慮て而して後に舎まる是三軍を畏るる者也舎豈能必ず勝を為能懼ること無而已

孟施舎ハ曾子ニ似タリ北宮黝ハ子夏ニ似タリ夫ノ二子之勇未其ノ孰レカ賢ヲ知ラ未然レトモ孟施舎ハ約ヲ守

普者曾子襄ニ謂テ曰ク子勇ヲ好ム乎吾嘗テ大勇於

朝に搏つを市不受於褐寛博なるを受不萬乘之君若し刺褐夫無嚴諸侯惡聲至必反之

北宮黝ハ膚に刺を視ること蒙ても目逃さず常に三ツの毫の先を撓ること人より撓ること市朝に於ハ朝なんどの人中に於て撓ること物を見ても目逃さず時ハ市朝に於ハ朝なんどの人中に於て撓ること如くおりふしなり褐寛博なるを受入ること大名なりとも受入ざること萬乗の君なりとも刺殺さんと褐夫を毀と若ようよ心得ること聞ハ必ず仕返さんとふるまひなく諸侯を畏厳ること悪声を聞ハ必ず仕返さんとふるまひなく人ごゝろなり

孟施舎之所養勇也曰視不勝猶勝也

孟施舎ハ曾子ニ似タリ北宮黝ハ子夏ニ似タリ夫ノ二子之勇未其ノ孰レカ賢ヲ知ラ未然レトモ孟施舎ハ約ヲ守

量敵而後進慮勝而後會是畏三軍者也舎豈能爲必勝哉能無懼而已矣

又孟子舎ハ膽ヲ守テ氣ヲ養ヒ敵ヲ量テ勝ヲ慮リ而シテ後ニ進ム是ハ不勝ト云ヒテモ勝猶ホ勝ト云ヒ勝ヲ必ズトスルニ因テ他人ノ如キニ非ズ敵ノ様子ヲ量知テ後ニ進ミ或ハ其ノ後ニ出會ノ如キハ膽病ノ三軍ヲ畏ル者ト同日ニ論ズベキ事ニアラズ常ニ曰ク我豈ニ人ニ必ズ勝ト云ベキヤウヤアラン只能懼ヲ膽ヲ守メ而已矣トイヘリ

孟施舎似曾子北宮黝似子夏夫二子之勇未知其孰賢然而孟施舎守約也

右北宮黝ハ是非トモニ敵ヲ量ヲ守ルヲ是ニ二人ト曾子子夏トハ云ヘドモ其氣象相似タリ

分ヲ論ズル事ニアラズ子夏ハ驚ク聖人ヲ信ジ曾子ハ我身ヲ立ヲ

子謂子襄曰子好勇乎吾嘗聞大勇於

普者曾子襄ニ謂テ曰ク子勇ヲ好ム乎吾嘗テ大勇於

嘗て大勇を夫子に聞そう自ら反りて縮まずんばう褐寛博うう不んばと雖ども吾惴れざらん

孟施舍の氣を守るは又曽子之約を守るに如かず

曰く敢て問ふ夫子之心と動ざる不告子之心と動ざるとを得可與聞こと

告子曰く言ふ得不ざるは勿れ心に求むること勿れ氣に求むること勿れ

夫子矣自反而不縮雖褐寛博吾往矣

馬自反而縮雖千萬人吾往矣

孟施舍之守氣又不如曽子之守約也

曰敢問夫子之不動心與告子之不動心可得聞與

告子曰不得於言勿求於心不得於心勿求於氣可

心勿求於氣可不得於言勿求於心不可夫志氣之帥也氣體之充也夫志至

馬氣次焉故曰持其志無暴其氣

と勿れ心に得不ざるは氣に求むること勿れ心に得不ざるは氣に求むること勿れ

聞こと得可與告子曰く言ふ得不ざるは勿れ心に求むること勿れ氣に求むること勿れ

曰く敢て問ふ夫子之心と動ざる不告子之心と動ざるとを得可與

孟施舍の氣を守るは又曽子之約を守るに如かず

雖ども吾往かん

不んばと雖ども吾惴れ自ら反りて縮まずんばう褐寛博うう

嘗て大勇を夫子に聞そう自ら反りて而して縮まずんばう褐寛博吾往矣

馬自反而縮雖千萬人吾往矣

孟施舍之守氣又不如曽子之守約也

曰敢問夫子之不動心與告子之不動心可得聞與

告子曰不得於言勿求於心不得於心勿求於氣可

心勿求於氣可不得於言勿求於心不可夫志氣之帥也氣體之充也夫志至

馬氣次焉故曰持其志無暴其氣

夫子矣自反而不縮雖褐寛博吾往矣

馬自反而縮雖千萬人吾往矣

孟施舍之守氣又不如曽子之守約也

曰敢問夫子之不動心與告子之不動心可得聞與

告子曰不得於言勿求於心不得於心勿求於氣可

心勿求於氣可不得於言勿求於心不可夫志氣之帥也氣體之充也夫志至

馬氣次焉故曰持其志無暴其氣

也曰志壹則動氣氣壹則動志也今夫
蹶者趨者是氣也而反動其心
蹶者趨者是氣也而反動其心丑こゝに
已に志ハ其次なりといひ又志を以て
氣を動すといひ又志を持て
壹なるべし則ハち氣を動すといふよと
ハ何なることぞや 御呑よ曰く
志ハ至りのなり氣ハ其
氣ぞ暴ハあよふ
ざーを動すと今夫
蹶者趨る者是氣
なり反て其心を
動すを

敢て問ふ夫子悪んの
乎長ずる曰く我
言を知我善吾
浩然之氣を養
なふ

敢て問ふ何を浩
然之氣と謂曰く
言ひ難し

其氣為至大至
剛以直を以て
養なふて害まる
こと無ハ則ハち天地
之間に塞ごる

子細ハ志ざーハ壹りのなり氣ハ其次
なり壹りのなふ氣ハ志ざーにつれ
ふよと ハ何なることぞや 御呑よ曰く
至りのなり氣ハ暴ハあよふ
子細ハ志ざー壹りのなふ氣ハ志ざーにつれ
ふよと ハ何なることぞや 御呑よ曰く
至りのなり氣ハ其次なりといひ又志を以て
氣を動すといひ又志を持て
壹なるべし則ハち氣を動すといふよと
ざーを動すと今夫
蹶者趨る者是氣
なり反て其心を
動すを

敢問夫子悪乎長 右さでに告子と異ふる所以ハ
自ぜん心をうごかさず長じたるや 曰我知言我善
養吾浩然之氣 御呑に告子の心よ求ることと
勿といふハ言を知ゝ我ハ言を
氣を求ることと勿と ハ何をうけんやその問なり
知てまた浩然なる氣を養なふなり言を知ることハ
それを惑ハさとなく氣を養なふハ次なり言を知ることハ
氣を養なふハ次なり言を知ることハ後に出ふ

敢問何謂浩然之氣曰難言也
公孫丑又浩然の氣と ハ何をうけんやその問なり
御呑よその形狀ハ言のべがたしとなり

其為氣也至大至剛以直養而無害
則塞于天地之間 又御呑よのべ言がたーといへ
ども強ていはゞ上よりうる志た
つふハるく氣ハ身体にみちるなれバ氣りーや
つふりるく氣とらくぐ勝ときハ心を動すをなふ志ハ氣と義ひ
浩然しむざきなふその氣とらふりのさハめて大こうして
至て剛さなふ常小正直を以てさまをやーるひ私の
作為を以て害うふことなくバ必ず長じて天地の間にみちるようになふ

其為氣也配義

與道無是餒也上文所謂正直を以て養なふハ内ふある本体をいふなりこゝに説ハタヘ弘なるべバ義と道とをおこなふよりも気こそが助となるなり不足なきをバうたがひなくして餒ることハなくして心を動をこくべし

之也行有不慊於心則餒矣我故曰告子未嘗知義以其外之也是集義所生者非義襲而取

まこと正直を以て気を内ふやしなひ義と道とハ身のおこなふべきことを称ふハあやまりなり内にとゞまりて合なき一ツの義理を襲とりて気浩然として集まるなり義より生じて出るこゝろ其義の義理と合一を襲とりてもとづくなり

戦争の時の詞なり味方そなへをなをしてかさにかゝるを襲と云本義ハタヘまかりよりかゝるをいふ

必有事焉而勿正心勿忘勿助長也無若宋人然宋人有閔其苗之不長而揠之者芒芒然歸謂其人曰今日病矣予助苗長矣其子趨而往視之苗則槁矣天下之不助苗長者寡矣以爲無益而舎之者不耘苗者也助之長者揠苗者也非徒

由ひもろ〳〵の義理を合一なして倦ことなく事〳〵に義理にうるひるをいふなり其如く一事のつゝの義理にうるひるをいふなり

なして浩然の気をもやしなひて盛く義理にうるひるをいふハ孟子の元来告子が義と

を舎う者ハ苗を耘ぐり不者ろ
之を助て長さろ
者ハ苗を揠者也
徒に益無のミ
非ごと而已て又之
を害を

無益而又害之必ず事に臨とつゝしべき
らたゝそれよう発をゝ
なり何そ義よ
ろ事のなんべき有を
自己の私して作為
長さんとまゝと殊の外
らハたゝ宋人の苗のごとくなう必ず然
べうゝぞとそ宋の國の人ゝ苗を種て長ざるを悶ひ
くやく生長せゝめむと土へ
帰て人ゞふやゝハ今日ハよれと病う苗の生長さるを
助つるとい其子趨て行て視ゝるに槁う今天下多ハ
苗を助ごひ長さざるりの
捨ハ苗を抜ざるといふのなうまゝ助ひて長生ゝさよ
らのハ右握捨るゝらふ内ゝ気の充を待ろゆと
ろくバ徒づらに無益なふとりのなう

何謂知言曰詖辞
知其所陥邪辞知其所

離道辞知其所窮生於其心害於其政
発於其事聖人復起必従吾
言矣

公孫丑又問なう其心を知るのなう
著いろゝのなうハ極て詖ハ和訓ゆがむなう詖の端ひがみ
まゝ邪また偏ゆがみ一辞心のよ暗き暗さるゝ者ゝろ
ろゝなろうと知るまゝ遍く放蕩言語極て其心溺入
瀕沈てろろ処なろう又通辞一て且誤ゐ仕出
又ろゝく取繕んとしても本の如くなうがさあり是
うゝび其心の遍て困窮ろるを知ろこの四つの者皆
言の病心の失念なうよの心胸中ゝ生じてハ政事ゝ
のぞゝて必ず害あり又政事ゝ発ろる時ゝその害必を
万事におゝぶ言を知の一事もその意ほといふべしてゝ
聖人復び起ろるとも我ゝ言ゝ従ふべしとぞ吾

宰我子貢善為説辞

知邪辞ハ其離
ろ所を知遁辞
ハ其窮まる所を
知其心ゝ生ずれバ
其政ごとを害を
其政ごとに発して
其事を害を聖
人復起ろるとも必ずと
吾言ゝ従ごろん

宰我子貢ハ善
説辞を為ゆ牛

冉牛閔子顔淵善言德行孔子兼之曰。
我於辭命則不能也然則夫子既聖矣
乎 孫丑曰問て曰く若者聖人の御門人
皆損顔淵の三人ハ大德くて身の行なひに長じ
孔子ハ大至德元ようこの五人の事を兼ふ然を
曰よハ我辭命の事を行なふに於てハ不能と
然うた夫子ハ已よ孔子よ勝うひーと
聖人とふうのなくんぞ乎 曰惡是何言也昔者子
貢問於孔子曰夫子聖矣乎。孔子曰聖
則吾不能我學不厭而教不倦也子貢
曰學不厭智也教不倦仁也。仁且智

厭ハ不ハ智也教へて倦ハ不ハ仁なう仁
うして且智うバ夫子ハ既よ聖うバ孔子も居
不是何の言ぞ

昔者竊ニ之を聞子夏子游子張皆聖人之一體。冉牛
有閔子顔淵ハ則ハら體を具て而して微なり敢て安ぢる所ニ

夫子既聖矣夫聖孔子不居是何言也
孟子の曰く惡是ハ何ごと言出くや子貢昔者聖人
問て曰く聖人とハ夫子の御事なるべーとあるバ
聖人の儕セた聖人の場ハ中く 亂等の能そろそろ
なるべき我ハたゞ学で厭ことなく人ニ教ることハ如何こ
愚昔なるおぢへたる者ニてもそれニ教て
倦ことのなふそのち子貢ハ初
拙くくるた学で厭ことなきゆゑ智た
なうのひーまうーと又右ゆうニ教ふて倦ことなきゆゑハ
人を仁こみのいうニ仁うて智を兼うハ聖人ニもうーそ
夕ニ有べーとも覚ぎと夫聖人の儕たハ聖人ニもうーう
居ることやまうくうて聖人とハ是何のこバぞや

夏子游子張皆有聖人之一體。冉牛
閔子顔淵則具體而微。敢問所安

曰姑舎是
曰姑舎是
曰姑舎是

公孫丑又曰管仲晏子の事あり昔者聖人の御門人の内子夏の輩がしハ各く聖人の體一ツを具て微少くらゐのなり敢て御問ハ夫子の體を盡く具てゐるものなり敢て御問ハ夫子の體を盡く具てゐるものなり敢て御問ハ夫子の體を盡く具てゐるもの

曰然則有同與曰有得百里之地而君
之皆能以朝諸侯有天下行一不義殺
一不辜而得天下皆不爲也是則同
又問曰敢問其所以異曰宰我
子貢有若智足以知聖人汙不至阿其
所好公孫丑又問曰然則孔子之聖人異矣
歟曰自生民以來未有夫子也
宰我曰以予觀於夫子賢於堯舜遠矣
曰觀奉ずる所以を見て其政を知り其樂を聞て其德を知百世之後由百世之王を等しうするに能違ふ莫生民自以來未ざ夫子有未
子貢曰見其禮而知其政聞其樂而知其德由百
世之後等百世之王莫之能違也自生
民以來未有夫子也
有若曰豈惟民之麒麟之於走獸鳳凰之於飛鳥

自身の好ひ所なるに私ふ阿諛する人ぐらいあらん宰我曰以予觀
其政務を知り其樂和の德を見てその
淺深甲乙を知ることを百代の後の今より百世も上代
の王を察もられ少も違を依てふつ
孔夫子の如き大さくハ有まとなり有若曰豈

太山之於丘垤河海之於行潦類也聖人之於民亦類也出於其類拔乎其萃自生民以來未有盛於孔子也

○孟子曰以力假仁者霸霸必有大國以德行仁者王王不待大湯以七十里文王以百里上篇已言霸者之事此又備言之蓋以起下文王不待大國之意

於鳥鳳凰之飛鳥於太山之丘垤河海之於行潦類也聖人之於民亦類也出其萃拔乎其萃自生民以來未有盛於孔子也

孟子曰以力假仁者霸霸必有大國以德行仁者王王不待大湯以七十里文王以百里

里也以力服人者非心服也力不贍也以德服人者中心悅而誠服也如七十子之服孔子也詩云自西自東自南自北無思不服此之謂也

里也以力服人者非心服也力不贍也以德服人者中心悅而誠服也如七十子之服孔子也詩云自西自東自南自北無思不服此之謂也

孟子の曰く仁ならバ則ち榮不仁ならバ則ち辱今辱を惡で不仁を居ハ是濕ふを惡んで下に居ざるが猶ほ

如之を惡ゞバ德を貴ひ士を尊ぶ如ハ莫賢者位に在能者職に在國家間暇なる時に及んで其政刑を明らセバ大國と雖ども必ず之を畏るべし

詩に云く天之未陰雨徹彼桑土綢繆牖戸を今此下民或敢て予を侮ることなしと孔子曰ハく此詩を為者ハ其道を知乎能其國家を治バ誰か敢て之を侮ん

今國家間暇なる時に及んで般樂怠敖を是自ら禍ハひを求るなり

禍福己より自之を猶ほ

○孟子曰仁則榮不仁則辱今惡辱而居不仁是猶惡濕而居下也

黙におちざる処の仁心を行ふバ榮ざる事や あらん仁ならざる事を辱めハやゝ辱と惡ゝおりみて却て下き土地に居ふるゝさ

如貴德而尊士賢者在位能者在職國家間暇及是時明其政刑雖

大國必畏之矣

人の上たる者の第一に慎むべき事なり如辱めを惡と也

詩云迨天之未陰雨徹彼桑土綢繆牖戸

此詩の心ハ鳥の巣を作るに雨の難義ならぬ前をなげくの心ろ天の陰て雨の催さぬ先をそなへ徹来て巣の牖戸の処を綢繆なくらへ徹来て巣の牖戸の処を綢繆なくらへ

の源を織繆るバ乱害の生ずるなく政道も成やと是周公の作る処なり聖人さへ斯ごとを好ふ

今國家間暇

此詩の心ハ鳥の巣を作るに雨の難義ならぬ前をなげくの心ろ天の陰て雨の催さぬ先をそなへ徹来て巣の牖戸の処を綢繆なくらへ徹来て巣の牖戸の処を綢繆なくらへ

の源を織繆るバ乱害の生ずるなく政道も成やと是周公の作る処なり聖人さへ斯ごとを好ふ

及是時般樂怠敖是自求禍也

世上間暇なる小乗て人く般樂怠敖の是自ふを求るとも人者なへ

禍福

求ゐ不者無

詩ニ云ク永ク言ニ配ス命ニ自ラ求ム多福ヲ太甲ニ曰ク天ノ作ス孽ハヒ猶ホ可違ヒ自ラ作ス孽ハヒ不可活ト此之謂ナリ

孟子ノ曰ク賢ヲ尊ヒ能ヲ使ヒ俊傑位ニ在バ則チ天下之士皆悅ンテ其朝ニ立ンコトヲ願

市廛ニシテ征セ不バ法ヲ而已ニシテ廛セ不バ則チ天下之旅皆悅ンテ其路ニ出ンコトヲ願

關譏テ征セ不バ則チ天下之旅皆悅ンテ其野ニ耕サンコトヲ

耕ス者ハ助ケテ

稅セ不バ則チ天下之農皆悅ンテ願ハ耕サンコトヲ

無不自己求之者 本禍も福も吉凶ともに己が身より求めら出ることの理なり

詩云永ク言ニ配ス命ニ自求多福ヲ太甲曰天作ル孽猶可違ヒ自作ル孽不可活ト此之謂也

詩經ニある常に道を重く守て永く天の命に配合ふ事を言へり自ら多くの福を求ることの理なり書經の太甲の篇に曰く旱損水損るゝ五穀に害あれども猶違ふ必ず尽く飢死することなし是天の作る孽ハ猶違ふべきなり自ら作る孽ハ活ることなし

孟子曰賢ヲ尊ヒ能ヲ使ヒ俊傑在ル位ニ則チ天下之士皆悅ンテ而願ハ立ンコトヲ於其朝ニ矣 それ上明らかに治るときハ賢人を尊び才能ある人を其官に備へ置れ天下國家を治るに俊傑の者位に在バ則ち天下の士皆悅ンテ而願ハ立ンコトヲ於其朝ニ矣

罪ナクシテ而殺ス士ヲ大夫ニ可ナリ也

○孟子曰尊賢使能俊傑在位則天下之士皆悅而願立於其朝矣

關譏而不征法而不廛則天下之旅皆悅而願出於其路矣 國の境所々の關所に非常を戒め譏のみにして旅人の荷物あの征をせざれバ天下の旅人も皆悅こびて出てこと願べし

市廛而不征法而不廛則天下之農皆悅而願耕於其野矣 井田の助法を用てそのうへ田地を耕すに法もて征稅をかけざるバ天下の農人これを聞て悅こびてその

市廛ニシテ而不征法而不廛則天下之旅皆悅而願出於其路矣 市廛の者に征稅をせざるバ天下の旅人皆悅こびて其路に出ることを願ふ

關譏而不征則天下之旅皆悅而願出於其路矣 關譏ニシテ而不征則天下之旅皆悅而願藏於其市 市廛の者に征稅をせざるバ天下の旅人皆悅こびて其市に藏ることを願ふ

稅則天下之農皆悅而願耕於其野矣 耕者助而不

願
廛而夫里之布無
也則天下之
民皆悅而願
爲之氓矣
國の田野を耕
さんと願ふべし
廛無夫里之布則天下之
民皆悅而願爲之氓矣
（廛は民の騙者の宅に桑麻を種ゑ
夫里の布とは今乱世なる
出さしむる事なくば民悅
ひて其國の氓ならんことを願ふべし
信能行此五者則鄰國之民仰之若父
母矣率其子弟攻其父母自生民以
來未有能濟者也如此則無敵於天
下無敵於天下者天吏也然而不王者
未之有也
（仁者戰ハ必ず勝といふハ他なし右のごとく
ハ人の帰服を得てよその睦まじ
の未之有未
孟子曰人皆
有
人有不忍之心
先王有不忍之
心斯有不忍人之
政矣以不忍之
心行不忍人之
政而治天下可
運之掌上
（孟子の曰く人皆人を忍び不之心
有ハ先王人を忍び不之
心有ハ斯人を忍
不之政ぐ有人を
忍び不之心を
以て人を忍び不之
政ぐと行ハゞ天
下を治むること
を掌上を運すが
如し
○孟子曰人皆
有不忍人之心
（人々の性
皆
の正氣を受て形
そのゆへんの心もなきハ
なり又人々忍びざる
心あることハ今の世うハ有ぎり如此ハゞ天の
未ざ之有未
（商を討ぶ沙へなり信ふ右の如く行ハゞ鄰國
までも帰服することハ子の父母を慕ふごとくなりむかく
ぐく不能濟りの今
吏とりのそ商賈をなさゞるのハ
なりても王さゝぬ
未なりそ

ようの政道なう人こ帰服して心安く治まることハ掌上ふりのと握が如く
所以謂人皆有不忍人之心者今人乍
見孺子将入於井皆有怵惕惻隠之
心非所以内交於孺子之父母也非所
以要誉於郷黨朋友也非悪其聲
而然也その忍めたくの人こあらざるの
たとへバ今孺子の井戸へ走
ようの為ことまるをバたとへ人を殺して金を奪ん
まるその者こそもなきを見てハ抱隠んとまる心おこ
もあまた忍ざる心こて人こ
殺の悪心あまたぐもそれハ欲こらざるの者にてまるふがゆく
是ハ畢我畢心ようの本心あ〳〵ハ〳〵まるこ〳〵其、孺子を抱
ろの村入魂の上父母を其父母こ求め内しらあ

是よ由て之を観バ惻隠之心無人
ハ非を羞悪之心無人ハ非を辞
讓之心無ハ人こ非ず是非之心無ハ
人こ非を
所存ありてもなく又義
ハ惻隠之心ありと雖ども之を郷黨の朋友こ
ともなくまた人こ悪さるまでにいろ〳〵誉を恐るて然なまる
之心非人也無羞悪之心非人也無辞
讓之心非人也無是非之心非人也
由是観之無惻隠
是理こ由て考ざる観バ人ようの心強くして惻隠のこころ
なんと無こ似まる者あり能くの人非人なろまる悪を
心なきこも人こらざるべからず又是非の心なきこも人こらざるべし
心仁之端也羞悪之心義之端也辞讓
之心禮之端也是非之心智之端也
凡そ人の形を受るの始めまる善心ならざるこそ人の
悪心の生ずるハ習こそて生長まるこ見聞ようの
惻隠之心ハ仁之端なう羞悪之心ハ義之端なう辞讓之心ハ禮之端なう是非之心ハ智之端なう

そのこの一ん人之是四端有ハ其四體有が猶一是四端有て而一て自ら己ら能ハ不と謂者ハ自ら己ら賊なふ者なり其君を能ハ不と謂者ハ其君を賊ふ者なり

凡そ四端我ら有者皆擴めて而一之を充るを知ルが如一始めて然泉之へ始めて達する

若一ハ苟しも能之を充バ以て四海を保るに足ル

孟子の曰く矢人ハ豈函人より仁ならんや矢人ハ唯人を傷不ん事を恐る函人ハ唯人を傷うを恐る巫匠亦然り故ず術ハ愼一ざ不んバある可うず不

そろ一の欲心生ぜざるなく一ろ一く養育を以て肝要とハらるなり人く仁義礼智の心備あるまど欲とふ一つ一ツ一暗迷ふ一ずく知べ一則ハらいふなる仁義礼智ハ手足四の體を具ると一ろ一まて出ると心得べ一人之有是四端也

猶其有四體也有是四端而自謂不能者自賊者也謂其君不能者賊其君者也人之各一ろの四つを備とふハ手足四の體を具ると一ろ一まて出ると心得べ一人之有是四端也

凡有四端於我者知皆擴而充之矣若火之始然泉之始達苟能充之足以保四海苟不充之不足以事父母右四ツの端のあるハ一大事なるまバ願ハ一大を為て其心の充滿ゆるの理を辨知べ一ものぞ一ふ一

○孟子曰矢人豈不仁於函人哉矢人唯恐不傷人函人唯恐傷人巫匠亦然故術不可不愼也矢を作る人と申ハ一ふ一ものぞ一ふ一矢師ハ矢を以て傷殺さんと欲ふ願ふ如ふ人く一ろ一ハ不仁一ふ一やらむ一ろ一なる堅さ甲冑もの矢を以て傷殺さんと欲ふ願ふ如ふ

孔子曰ま八く里ハ仁を美と為ㇾ擇で仁に處不ㇾ焉ら𥫱ぞ智を得ん夫仁ハ天之尊爵く人之安宅なり之を禦ぐく莫ㇾ而ㇾ不ㇾ仁不智無礼無義人の役なり人の役為ㇾ而ㇾ恥ハ弓人ㇾ而ㇾ矢人ㇾ而ㇾ恥ハ射の如く射者ハ己を正まつて而ㇾ後ㇾ発ㇾ発而ㇾ不ㇾ中不ㇾ怨ㇾ勝己者ㇾ反ㇾ求ㇾ諸己ㇾ而已矣仁者ハ射の如し

函人の懼恐づうひまをる人ㇾ傷ㇾ甲冑そこゝろ若や人の命ㇾ之神巫と葬式を業とするㇾ浮佞の心も然ㇾ己なるㇾ而已ㇾ悠体これ限らざあり誠ㇾ術ハ慎ㇾむべし孔子曰里仁ㇾ為美擇不ㇾ處ㇾ仁焉𥫱得智夫仁ハ天之尊爵也人之安宅也莫之禦而不仁是不智也聖人ものゝ厚く賢ㇾ推おとろ俗風あり村里ハ誠ㇾ人も住居ㇾ朱ㇾ交ㇾ而ㇾ自然ㇾ赤ㇾ墨ㇾ染ㇾ而ㇾ黒ㇾ之理うつりそめくのごとし

不仁不智無礼無義人の役なり人の役為ㇾ而恥ハ弓人ㇾ而ㇾ矢人ㇾ而恥ハ矢人ㇾ而ㇾ恥ハ射ㇾ己ㇾ而後ㇾ発ㇾ発而ㇾ不ㇾ中不ㇾ怨ㇾ勝己者ㇾ反ㇾ求ㇾ諸己ㇾ而已矣仁者ハ射の如し

塹ㇾ壊ㇾ居住ㇾ智を得ㇾ仁義と安楽なる居宅なり仁ハ人の尊ㇾ官爵ㇾ時ㇾ人の仁義ㇾ而ㇾ心を御ㇾ事ㇾ如ㇾ為ㇾ仁仁義礼智の徳ある者ハ人の上ㇾ立て人を服ㇾ事ㇾ人の為ㇾ役ㇾ不仁不智なる者ハ人の役ㇾ為ㇾ人の役ㇾ為ㇾ而恥ㇾ為ㇾ弓矢人ㇾ而恥ㇾ為ㇾ矢人ㇾ而恥ㇾ射ㇾ己ㇾ而後ㇾ発ㇾ発而ㇾ不ㇾ中不ㇾ怨ㇾ勝己者ㇾ反ㇾ求ㇾ諸己ㇾ而已矣仁者ハ射の如し

作ㇾ色ㇾ恥ㇾ言ㇾ語ㇾ恥ㇾ容ㇾ貌ㇾ恥ㇾ然ㇾ己ㇾ恥ㇾ之ㇾ心ㇾ仁ㇾ為ㇾ己ㇾ如ㇾ此ㇾ仁者ハ射ㇾ己ㇾ而後ㇾ発ㇾ発而ㇾ不ㇾ中不ㇾ怨ㇾ勝己者ㇾ反ㇾ求ㇾ諸己ㇾ而已矣仁者ハ射の如し

役なり人の役為ㇾ而恥ㇾ為ㇾ弓矢人ㇾ而恥ㇾ為ㇾ矢人ㇾ而恥ㇾ射ㇾ己ㇾ而後ㇾ発ㇾ発而ㇾ不ㇾ中不ㇾ怨ㇾ勝己者ㇾ反ㇾ求ㇾ諸己ㇾ而已矣仁者ハ射の如し

役とならて下とならざる事ㇾ不仁不智なる者ハ射ㇾ己ㇾ而後ㇾ発ㇾ発而ㇾ不ㇾ中不ㇾ怨ㇾ勝己者ㇾ反ㇾ求ㇾ諸己ㇾ而已矣仁者ハ射の如し

○孟子曰子路人告ㇾ之以ㇾ有ㇾ過則喜

禹善言を聞ば則ち拜を

大舜焉より大なる事有て人と與に同ずる有善人與同ずるを己を舍て人より從ふ人より取て以て善を為すを樂しむ

耕稼陶漁より自ひて帝為るに至て人より取ざる非ず諸を人より取て以て善を為す是人與善を為者なり故ゆゑに君子人與善を為ること大なるハ莫

孟子の曰く伯夷ハ其君に非ざれバ友とせず悪人を事ず悪人と與に言ず悪人の朝に立ず悪人と與に言ず朝衣朝冠を以て塗炭に坐するが如し悪を惡むの心を推思ふに鄉人と與に立其冠もし正しからず不ハ望望然として之を去將に浼さんとするが如し雖ども

子路の為人たるや人より是ハ不善となり是ハ道ならぬ事なりとその過失を告来るものあるバ殊に喜び甚しくそれを誡めいとゞ善に進むを以て舜帝の大なる徳といふも善事を人よりも取ざる事已不足なる事不善ざる事なきを聖人舜帝の大なる徳とてもなほ同じく行なふ事を恥ず身を行なひ人の宜きところを取てそれを行なひあまつさへ人の為ところを從ふ人の宜きを樂しむことなり

耕稼陶漁より帝為るに至て人より取ざる非ず諸を人より取て以て善を為す是與人為善

同己從人樂取於人以為善

禹聞善言則拜 聖人禹王ハ善言語を聞ば

非取於人者取諸人以為善也故君子莫大乎與人為善

耕稼陶漁より帝為るに至て人より取ざる非ず諸を人より取て以て善を為す是與人為善

○孟子曰伯夷非其君不事非其友不友不立於惡人之朝不與惡人言立於惡人之朝與惡人言如以朝衣朝冠坐於塗炭推惡惡之心思與鄉人立其冠不正望望然去之若將浼焉是故諸侯雖有善其辭命而至者不受也不受也

將ㇾ君是故ニ諸侯辭ㇾ命ヲ善ク至者有ㇾ之雖ㇾ不ㇾ受ㇾ不ㇾ受不者ハ是亦就ヲ屑ヨウセ不ㇾ已

柳下惠汗君ト差不ㇾ正ヲ卑ト官ヲ不ㇾ羞ヂ賢ヲ隱サ不ㇾ必ズ其道ヲ以テ遺佚ー而怨ミ不ㇾ阨窮ー而憫ヘ不ㇾ故ガ沙ヘ曰ク再ビ不ㇾ再ビ為ㇾ我ガ我ガ為ㇾ我ガ則チ子ナリ祖裼裸裎雖ㇾ然ト能ク我ヲ浼サン哉故ニ由由然ト與之偕ニシテ而不ㇾ自失セ焉援テ之ヲ止メテ而止マル援テ之ヲ止メテ而止マル者是亦去ヲ屑ヨウトセ不ㇾ已

孟子ノ曰ク伯夷ハ隘ー柳下惠ハ不ㇾ恭ー隘ト不ㇾ恭ハ君子ハ由不ㇾ與

者是亦不屑就已此段孟子ノ人ノ伯夷柳下惠ノ事ヲ論ズルヲ伯夷ハ己ガ心ノ君トスベキ人ニアラザレバ遂ニ一事ヲモ其ノ人ニ仕ヘズ又悪ノ人ト雖ドモ悪ノ人ノアル政道ノ朝班ニハ立ツ時ハ其ノ人ト同ジ朝衣朝冠ヲ著テ塗炭ノ中ヘ坐スルヤウニ又悪事ヲ悪ムノ心ヲ掩フタメニ鄙人ト雖ドモ其ノ人ノ言語ヲ悪ミ給ハズシテソノ人ト共ニ居ルヤウニ我身ノ潔ヨクシテ諸侯方ヨリ辞命ヲ善ク敬テ迎ル至ル共ニ安ンジ受ルモ是全体ノ心ヨリハゴル故ニソ柳下惠不羞汙君不卑小官進不隱賢必以其道遺佚而不怨阨窮而不憫故曰爾為爾我為我雖祖裼裸裎於我側爾焉能浼我

援而止之而止者是亦不屑去ヲ已

柳下惠ハ知ノ汗君ヲ主君トナシテモ益トモセズ小官ヲモ卑ムル事ナク賢徳アルヲ隠サズシテ道ヲ以テ人ニ接スルヲ遺佚ノアヒテモ怒ラズ阨窮ノ故ニ常ニ曰ク如何ナル阨窮ニモ再ビハ再次第ナリ我ハ我ナリ我側ニテ祖裼裸裎ナル傍若無人ナル振舞ヲスル人首ニナルトモ我ヲ浼サンヤト云ノ心ユヘニ操行ヲ失ハヌ筋ナリ題ハマヽソノ場ヲ屑ヨク進ム事ヲシテ自己賢徳アルヲ隠シテ道ヲ以テ人ニ接スルトナク世ノ暗ニシテ見出ス事ヲモ遺レタル世ノ汗君ヲ主君トナシテモ益トモセズ小官ヲモ卑ムル事ナクシテ世々用ヒラレ進ムヲ屑ヨクセズ

孟子曰伯夷隘柳下惠不恭隘與不恭君子不由也

右伯夷ノ狷介心ノ隘ニナル下惠ガ

公孫丑章句下

孟子の曰く天の時ハ地の利ニ如不地の利ハ人の和ニ如不

公孫丑章句下

孟子曰天時不如地利地利不如人和

此段殊ニ真理ふかく尤大切の場なり世の中の人の道を尽し行ふと弟一ニ人道ハ重といふを諭さんと本人間天を頼奉まつる事ハ聖人天地の神明ニ法とりて道を立ふなり是聖人の道なり殊ニ天朝ハ日月國家の神明を尊戴して頼奉事弟一義なり然どもその理を考ふべし人事を尽さゞれバ生熟の意ハ別義ありこの段の意ハ凡そ天下を治るふも又一家を治ることくべし人の親しむ和ぐことを得ざれバ仮令天の運たくみありても地の要害利不利を考へ

行ハ恭の場なくしてそまつなるいづまも常の人ハあるべくも上たる位をつゝしみうやまふ君子の由行るさ道ニしてハあるべくも

三里之城七里之郭環て而攻之而不勝夫環て而攻之必うべき天の時を得て而攻之而不勝者有然ども時ニ如不利ハ益なくしたくみの理なり天の時ハ地の利ニ如不

三里之城七里之郭環て而攻之而不勝者ハ是天の時ニ如不地の利ニ如不

三里之城七里之郭環而攻之而不勝夫環而攻之必有得天時者矣然而不勝者是天時不如地利也

三里とハ城郭とりふ本城と内山城ハ郭つゞくを用ゆ地城ハ郭つゞくめを用ゆ二の郭とハ搦手なり三の郭とハ大手働郭なり外を幾重も捨郭とりふハ国都の大城の如し初の章の心ハたとくバ此ニ合戦さだめ城あらん時ハ是全体ハ攻べき天の時を得て攻戦ふ事ハ是ハ節を得る事あるべし又ハ風を幸ひ火攻をりちひ又ハ秋雨ふりつゞくとさるハひつせきあて水をそゝぎだうけんなどのふうに然ども破ることくバ

城高うく禾ム非ざ池深うく不ム非ざ兵革賢利なく不ム非ざ粟多うく不ム非ざ委て而て之ㇾ去ㇾ是地の利人の和ム如不なり

故ゆへに曰く民を域るに封疆之界を以てせ不ㇾ國を固もるに山谿之險を以てせ不ㇾ天下を威るに兵革之利を以てせ不ㇾ道を得る者助多く道を得ざる者助寡なきの至

助け寡なきの至親戚之畔所を攻故ゆへに君子ハ戰ハ不ㇾ得ㇾ已ざるに有戰ハ必ず勝

失なふ者助寡なし

孟子曰く天下う戚を順ふ者ハ少を畔く天下う戚を逆ふ者ハ多し少を以て多を攻ㇾ故ゆへに君子ハ戰ハ必ず勝

孟子將ㇾ朝ㇾ王ㇾ王使ㇾ人來ㇾ曰寡人如ㇾ就ㇾ醫ㇾ有ㇾ諸ㇾ乎ㇾ孟子對曰不ㇾ可ㇾ有ㇾ疾ㇾ將ㇾ出ㇾ弔ㇾ或ㇾ曰今日不ㇾ可ㇾ出ㇾ弔ㇾ而

就て見ゆるが如き者ありて寒疾有りて風と可らず不朝す將に朝せんとして視と將に不寡人に見ゆるとを得さ使可乎對て曰く不幸にして而して疾有り朝す造ること能はず明日出て東郭氏を弔す孫丑曰く昔者は辭を以て疾を病とせり今日は弔せり或者は不可ならん乎曰く昨は疾今日は愈

見者也有寒疾不可以風朝將視朝不識可使寡人得見乎對曰不幸而有疾不能造朝（孟子折らんとす）王へ伺ひ造らんことをめぐらすとは朝廷へゆらんと存ずるなり其処へ王より使者ありて王の命を傳て曰く寡人本より賢者へ就て見べき如の者なり然るに寒疾にて而して疾有り朝す造ること能はず明日出て東郭氏を弔す孫丑曰く昔者は辭を以て疾を病とせり今日は弔せり或者は不可ならん乎曰く昨は疾今日は愈

郭氏弔孫丑曰昔者辭以病今日弔或者不可乎曰昔者疾今日愈如之何不

視とらんことを使可のうんやとなり若先生朝へ出らるゝ寡人これも亦疾あり明日朝へ造ると覚なりと返答あらん

明日出弔於東郭氏

明日出て東郭氏を弔す孫丑曰く昔者は辭を以て疾を病とせり今日は弔せり或者は不可ならん乎曰く昨は疾今日は愈

之を如何を弔せ不ん

王人を使て疾を問はしめ醫を酉來孟仲子に對て曰く昔者王命有て新之憂有て朝へ造ること能はず今病小愈趨て朝へ造るを我識不能至るや否乎數人を使て路へ要て曰く請必ら之を歸と無して而して朝へ造れ

弔その明の日齊の大夫東郭氏へ弔使ありしとは弔かさず他出なりし公孫丑の曰く昔者の辭には病ありといひ今日は他人へ弔ふ或不可とにやらんまでと孟子の曰く昔者は疾あるとばかりにて今日は愈あるとは

何之如出弔

何之如出て弔ざらんや

王使人問疾醫來孟仲子對曰昔者有王命有新之憂不能造朝今病小愈趨造於朝我不識能至乎否使數人要於路曰請必無歸而造於朝

王へ伺ひ造らんとするまでなり

王使人問疾

王より使者ありて病中の御問ひを聞めして

醫來孟仲子對曰

孟子の對を聞て孟仲子といふ者ありて時に孟子他出の後なるとは留

昔者有王命有新之憂不能造朝今

主君の孟仲子といふ者に對て曰く昔者使者に王の命ありて時は孟子の新なる憂御座ぞ朝廷へ造ること能はざるとは

病小愈趨造於朝我不識能至乎否使

今日は小〻愈よくなりぬるぞ朝へ趨て造〻やと存じ不識なるとぞ使

數人要於路曰請必無歸而造於朝

そのうち王より孟子の對を聞て醫師を使はして病中の御問ひ

已とを得不して
景丑氏に之て宿
と景子曰く内よ
ハ則ハち父子外よ
ハ則ハち君臣人之
大倫之父子恩を
主とし君臣敬と
主とを丑王之子
を敬をるを見未
王を敬をる所以と
見未

返答をなして使者を
しその路〳〵をおこし跡
とハ火を要さ〳〵り〳〵孟子ニ逢ハ請くハ歸
とハ火を燒と不自由なるに朝廷へ造らんと申ふめり之新と来
なるべくの疾といふこころなるう

不得已而之景丑氏宿焉景子曰內則
父子。外則君臣人之大倫也父子主恩
君臣主敬丑見王之敬子也未見所以
敬王也孟子も右孟仲子ら出セー要の人ニ逢て
不得已おるゝ大夫景丑氏の家へ之て宿ぬ
景仲子ゞ曰く凡そ世ニ重りの八家の内そハ父子の
道なり家の外りそハ君臣の道なり人間の第一の倫
なりそもやゝ子ニるる者ハ父の恩の厚きを主とし臣ニる
りの君ニハ敬まぐべきを主とせ天地あんかぎり不易の
道なり今王ニ子を敬恭うやまうを見うるのゆえ子の
王を敬恭うやまうを見ぎ如何なる義ぞ丑ハ景子自ら

曰く惡是何の言ぞ
ぞ齊人仁義を
以て王與言者無
豈仁義を以て
美なり不ゝ爲其
心ニ曰く是何
與ニ仁義を言
ニ足と尚云ハ則
ハち不敬是
大なるハ莫我竟
舜之道ニ非ざれ
バ敢て以て王の前ニ
陳セ不故ゞゆへニ
齊人我王を敬
をるニよ如ハ莫

景子曰く否此と

與王言者豈以仁義爲不美也其心曰
是何足與言仁義也云爾則不敬莫大
乎是我非慕舜之道不敢以陳於王前。
故齊人莫如我敬王也孟子遂を聞て曰く惡
是何をゝ言出ーなや
我そ王と敬恭の弟一なるめまゝ齊の國中の人ニ仁義
の道と王と語說人とてバなゝそもとゝも仁義のこと
不美と爲そも
此王ハ仁義の事を語うたゞとゝも人ゞ心の内ニそも
再ゝ云バ大ゝ不敬うなり我ハ今まで
ゝの竟なゝび聖人の道のゝ外ニ王の御
前ニ陳ゝことなゝ法なゝび齊の人ぐんた
比べバそれそど王を敬恭うのハあゝゞ

景子曰。

謂ふ非なり禮よ曰く父召ば諾そと
ふく無君命して召ば駕と俟不固
よう將ん朝ちんと將王命を聞て遂の
遂の聚ん宜く夫の禮與相似不ず若く然
曰く豈是を謂んや與曾子の曰く晉楚之富及可うも不彼其富と以くし我ハ吾仁を
彼ハ其爵と以てもし我ハ吾義と以てもし吾何ぞ慊ん乎夫豈不義ならんや曾子
之を言んや是或ひハ一の道なう天下ニ達尊三ツ有爵一齒一德一
朝廷ハ爵一如ハ莫鄉黨ハ齒一如ハ莫世を輔ケ民ニ長ずるハ德一
如ハ莫悪くんぞ其一を有して其二を慢どるを得ん哉

否非此之謂也禮曰父召無諾君命召
不俟駕固將朝也聞王命而遂不果。
宜與夫禮若不相似然（景子又曰く不召ぶ人ふ
の仁義の謂を云
曰豈謂
令と聞て行ことを果
其の理相似ざるが如く然なるや
是與曾子曰晉楚之富不可及也彼以
其富我以吾仁彼以其爵我以吾義吾
何慊乎哉夫豈不義而曾子言之是或
一道也天下ニ有達尊三爵一齒一德一
朝廷莫如爵鄉黨莫如齒輔世長民
莫如德惡得有其一以慢其二哉

孟子ふ子ふて曰く若重りのを以て比べハ豈に是
式を謂べんや曾子も曾てのふ事あり晉楚
うの如き大國の富ることにハ及べうべく然ども彼ハ富
を以てもしバ我ハ仁とふ德あり彼ハ諸侯の爵
爵あるバ我ハ義と重きを抱く吾何ぞ慊ふんや是も又一ツの
と此詞曾子の不義なる心ゑて言べんや是も又一ツの
道なうそれ天下の間ニ三ツの尊きふのあり
ニハ齒齡三ツおハ德義なり朝廷政道の場ニハ官
爵ふ如りのなり鄉黨の出會ニハ齒齡を上とふもと
ふまさ國天下を治ろ万民をめぐみ世の困ニと助け
人ふ長ずるハ德義ふ起るりのそ悪いそんや齊王
爵の一ツを以て我ふ德の重と齒齡の高きことを揣る

故ゆゑに將ふ大よ為と有んと將之君ハ必ら召不所之臣有謀こと有んと欲ハ則ち之よ就其德を尊び道を樂しむ是の如くなる不バ與ま為と有ら足不

故ゆゑに湯之伊尹よ於ける学て而して後之臣と故ゆゑに労セ不して王ること桓公之管仲ふ於ける学て而して後之臣と故ゆゑに労セ不して霸ること

今天下地醜く德齊ひ能相尚も莫他無其教ゆる所と臣とをること好くして其教を受る所を臣とをること好ま不

湯之伊尹ふ於る桓公之管仲ふ於る則ち敢て召ず管仲且猶召可うう不而を況んや

師範の位なり尊び天下定まりて後臣の位列なる桓公の管仲を召ふこと湯王の天朝を召ふことく同さなり之に倣て

張土地をひろくして醜く其德齊ひて互に相尚とむことなく怨を結で敵對をなさゞるとならば天下を従ふ帰服せしむること猶ほ我君ふる者ハ己が所教令をの人扶の者を召抱て臣とすることく此方へ教をうみて敬崇べきうるの賢德の者を召抱ることく好ざるゆゑなり今齊王る又その位の人となう

一ツを攻てその二ツを慢どるの理あんや

故將大有爲之君必有所不召之臣欲有謀焉則就之其尊德樂道不如是不足與有爲也

それ故に大なる望を為と将の君ハ自由ま召不所ろくの尊敬せざんバあらべからざる如なる賢人を尊敬せざんバ欲バ則ち之よ就ことを欲バ則ち其賢人へ就謀ことをも施さんと欲バ則ち其賢人へ就従ひて聞べくかく振舞ことハ妄に高邁との儀にてハさらく〳〵なるべからざるにあらざるをバとても用ひ行なふと行留ることハ與に為と

なるまじき足ざるハ益なき事と

故湯之於伊尹學焉而後臣之故不勞而王桓公之於管仲學焉而後臣之故不勞而霸

右の訳ゆゑに普者湯王の伊尹を召ふ始ハ

仲者乎　湯王の伊尹を相遇するも、桓公の管仲を用うるもその例同一くさなり伊尹ハもうざ
しも管仲の如きさえ召ともとべうまじ況や管仲ハ
為り足ざることまでおもひも五吾をハ疾たとようとするとハ如何の道理ぞ

○陳臻問曰前日於齊王餽兼金一百
而不受於宋餽七十鎰而受於薛餽五
十鎰而受前日之不受是則今日之受
非也今日之受是則前日之不受非也
夫子必居一於此矣孟子曰皆是也
御門人陳臻問て曰く前日齊より帰るの時王兼金百鎰を下さるるを一而も受ずして宋の國にて七十鎰をうけ又薛にて五十鎰をうけるの前日受ざるの道に今日の受るの是なるハ非ざるの理あらんや若於齊則未有處也無處而
餽之是貨之也焉有君子而可以貨取
乎　若もし齊の國に居る一時ハ遠行するなく又兵の戒なくして餽ハ是貨と貪之君子焉ぞ貨と取の理あらん
宋に在て當て予將に遠く行て有んと將行者ハ必らさに贐むけと以て辭に曰く贐むけに餽ること予何為ぞ受不辭に在ては當て予戒心有辭して曰く戒を聞故ぞ兵の為にと餽ること予何為ぞ受不ん
若辭に於てハ則ハち未だ處らざると有未だ處らざると無
夫子いづれが是なる非うべきやと
孟子對ていふハ兩方ともに道に叶なるなり

當在宋也予將有遠行行者必贐辭曰
餽贐予何為不受辭曰聞戒故為兵餽
之予何為不受當在薛也予有戒心
是なりとの訳ハ宋に在るときハ予遠方へ行とありこと行の者に贐来る辞なる贐と餽とあるをハ受べくこと
又薛に在るときハ予害せんともくる者あり予戒慎のこと
なり何為ぞ受ざるの理あらんや若於齊則未有處也無處而
餽之是貨之也焉有君子而可以貨取
乎　若もし齊の國に居る一時ハ遠行するなく又兵の戒なくして餽ハ是貨と貪之君子焉ぞ貨と取の理あらん

○孟子之平陸謂其大夫曰子之持戟之士一日而三失伍則去之否乎曰不待三平陸ハ齊の邑ニシテ其ノ領主の大夫ナリ孟子の曰ク子の三度も吾伍卒ヲ失ヒ其ノ大夫の曰ク三ニ及ブノ罪ヲ待ツヿ無シ子細ハ幾歳凶年ニ子の民老羸溝壑ニ轉ト壯者ハ散テ四方ニ之者ノ幾人ト千人曰ク此ニ及ブモノハ大夫ノ罪ニ非ス凶年饑歳ニハ子之

王之都を為者臣五人を知其罪を知者惟孔距心王の為之を誦を王の曰く此則ち寡人之罪なり

孟子蚳鼃を謂て曰く子之霊丘を辞して士師を請ひ其以て訐ひ可ざる為なり今既に数月未だ言可うべからず未だ与蚳鼃王を諫めて用らるを不為を致して而して去齊人曰く告ぐ公都子以ふ告ぐ曰吾之を聞り官守有者ハ其職を得ざれバ則ち去る言責有者ハ其言を得ざれバ則ハち去我ふ官守無く我ふ言責無し則ハち吾進退豈綽綽然ふして餘裕有んや

者惟孔距心為王誦之王曰此則寡人之罪也

他日子孟子の御話し王の都城を築ふ大夫ふて八惟孔距心一人なふそれを知ふ自ふ其罪を辨知りのハ王の為し誦ふ及々ふバ王の曰く此寡人の罪之と

○孟子謂蚳鼃曰子之辞霊丘而請士師似也為其可以言也今既數月矣未可以言與

孟子齊の大夫蚳鼃とふ人を謂ふハ吾子霊丘の役を辞退ありて士師の官を請ふ受らるしハ一理あるに似ふ士師の官ハ王の刑罰の非道あるバそれを諫言まぐさき為なふりふや今ものごろふて六七旬の数を経ふ未だ言べき事のなふくふしふや

蚳鼃諫於王不用致為臣而去齊人曰所以為蚳

蚳鼃これを聞やふて王を諫ふて用らまざるに因て職を致てふ去ふと齊の人のふハさふハ蚳鼃ゲ事を自ふ身の為処ハ不知く孟子の指圖あり其理にあふて善考ふるをぐも

鼃則善矣所以自為則吾不知也

公都子以告曰吾聞之也有官守者不得其職則去有言責者不得其言則去我無官守我無言責也則吾進退豈不綽綽然有餘裕哉

公都子ふの事を孟子へ告ふバ孟子の曰くまふ汝ハ人公都子ふの事を吾昔ふ聞傳ふてあり官ぞを守ふつとめる人ふそふ言ぐ職ぐふお意得ざる事あるバ去ふまふさふ言の責の官なるにりふぐ言の用らるまぐざれバ則ハち去

孟子齊卿之爲出
ㇾ滕ヲ弔ス　王
蓋大夫王驩ヲ使
テ輔行ニ爲ニ王驩
朝暮ヲ見ユ齊
滕之路ヲ反ルヲ
未ダ嘗ニ之與
行事ヲ言未

公孫丑曰齊卿之
位小ニ一ト爲不
ㇾ遽滕之路近ニ
ト爲不之ヲ反
ニヲ未嘗テ與
ヲ行事ヲ言未

ハ何ゾ曰ク夫既
ニ之ヲ治ムルヿヲ
或予何ヲ言哉

去ラントモシテ猶エヨウ我ニ此ニツルニ一まつり玉バ吾進退
豈ニ綽綽然ゾンヤ貶ヲ是ヲ以テ心ヲ餘裕テアルヿヲ

○孟子爲卿於齊出弔於滕王使蓋大夫王驩爲輔行王驩朝暮見反齊滕之路未嘗與之言行事也

孟子ノ此ノ時齊ノ卿相ノ格ヲ以テ滕ニ葬礼ノ事ヲ弔シテ王ノ御代ヲ弔ノ玉ヒシヿヲ又蓋ト云ヘル都城ノ大夫王驩ト云ヘル一所ノ道中ナレバ朝暮孟子ト相會シテ滕ヨリ齊ヘ反マデニ此ノ行事ヲ談說ノ事少ニシテ滕ヨリ齊ヘ

公孫丑曰齊卿之位不爲小矣齊滕之路不爲近矣反之而未嘗與言行事何也曰夫既或治之予何言哉

門人公孫丑問テ曰ク齊ノ卿位ヤクハウクシテ小サクナシ久齊ト滕トノ間道程ヨウヤクトラヤウヤクアルヲ然ニ朝暮サヘカクノミアルハ是輕クシテ心ニ挾アルニ似ヤ孟子對テ曰ク凡ソ君ノ使ハ諺ノ手マヨヒヲ動ス定ベキヲノナリ既ニ決ノ後ヲヤ何ヲ言ハンヤトアリ

孟子齊ヨリ魯ニ反ル葬ヲ
ムル齊ニ反ツク嬴ニ
ニ止ル充虞請テ
曰ク前日虞之不
肖ヲ知不虞ニ匠
事ヲ敦セ使ム嚴
ナラン虞敢ク請不
今願ハクハ窃ニ請
ヿヲ有木ハ以テスベ
美カラン若クハ然
リ

○孟子自齊葬於魯反於齊止於嬴充虞請曰前日不知虞之不肖使虞敦匠事嚴虞不敢請今願竊有請也木若以美然

孟子齊ヨリ魯ノ國ヘ反ルヿ葬ヲ送ル夫ヨウ齊ノ國ヘクル時嬴ノ領分ニ嬴トラウ宿ニ止マラウト云ヘル人充虞請問テ曰ク前日ハ不肖ノ身ナルヲ以テ棺ヲ匠事ヲ嚴ニ敦ク取扱ヒ仰セ付ラレ下サレ候ヒシヲ今少シ際ノ窃ニ請ケ上ゲ度ク存ジ候ヒシ其節ハ事嚴ニ敢テ御ヒ辭ヒ申ス義ニ候ヘバ棺槨ノ木ハ以ノ美々布カラン存ジ候ヒシヲ

曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨

曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨

如何曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨

曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨

盡已

得不ハ以ス悦こひを爲可うう不財無れバ以ス悦こびを爲可うう不之を得て財有と爲古之人皆之を用ゆ吾何爲ぞ獨然ら不ん

旦化者の比ふ土を使て屢ふ親

曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨

くあと無し人心う於て獨り恢よきこと無ち ん乎吾之を聞けり君子ハ天下を以て其親ふ儉セ不

曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨故曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心孟子說之大人者言不必信行不必果惟義所在大人者也大人之事備矣人之達道五而大倫三大倫之中父子有親親之道也親親之道莫大於喪喪之禮莫重於棺槨

沈同其私を以て問て曰燕伐可ー與孟子の曰く可ふり子噲人ふ燕ふ與ふるを得不子之燕を子噲ふ受ることを得不此ふ仕と有而ーく子之を悦こび王ふ告不

經典餘師　卷五十二　孟子　三十三　王洲集餘編

無使士親虧於人心獨無恢乎吾聞之也君子不以天下儉其親

○沈同以其私問曰燕可伐與孟子曰可子噲不得與人燕子之不得受燕於子噲有士於此而子悦之不告於王而私與之吾子之祿爵夫士也亦無王命而私受之於子則可乎何以異於是

私ふ之ふ五ご子し之の祿ろく爵しゃくを與あたへ夫それ士も亦王命無くして私ふ之を予ふ受うくバ則ち可かんや乎か何なにを以もつて是これ異ことならん

齊せいの臣下しもと沈同とう者もの私ひそかに孟子へ問て曰く今いま燕の國大いに乱て大夫の子し之ハ君の嗣ことうぐんとそて上下相和やわらぐ事なく一人いちにん無して且うんや孟子對こたへ曰く燕王噲ハ不義とらゐべくそ燕の大夫子し之し位くらゐを讓ゆづるハ燕王子職ハ賢徳の人ひとへ讓て子し傳つたふるハいうまでとらゐ國民ハ服せざるハ大夫子し之し位くらゐを讓ゆづりて例れいを引出ひきいだし孟子說て曰くたとへバ官のごとく仕官のえらんで王に告つげて私のそうらひそこそ吾ごの祿ろく爵しゃくを與あたへんや燕の乱を引出ひきいだし孟子說て曰くたとへバ官のごとく仕官のえらんで王に告つげて私のそうらひそこそ吾ごの

齊せいの臣下しもと沈同とう者もの私ひそかに孟子へ問て曰く今いま燕の國大いに乱て大夫の子し之ハ君の嗣ことうぐんとそて上下相和やわらぐ事なく一人いちにん無して且うんや孟子對こたへ曰く燕王噲ハ不義とらゐべくそ燕の大夫子し之し位くらゐを讓ゆづるハ燕王子職ハ賢徳の人ひとへ讓て子し傳つたふるハいうまでとらゐ國民ハ服せざるハ大夫子し之し位くらゐを讓ゆづりて例れいを引出ひきいだし孟子說て曰くたとへバ官のごとく仕官のえらんで王に告つげて私のそうらひそこそ吾ごの祿ろく爵しゃくを與あたへんや燕の乱を引出ひきいだし孟子說て曰くたとへバ官のごとく仕官のえらんで王に告つげて私のそうらひそこそ吾ごの

問曰勸齊伐燕有諸曰未也沈同問燕

可伐與吾應之曰可彼然而伐之也彼

如曰孰可以伐之則可以伐之今有殺人者或問之曰人

可殺與則將應之曰可彼如曰孰可以殺之

殺之則將應之曰爲士師則可以殺之

今以燕伐燕何爲不王之哉

右の後齊遂に燕を伐ふ

或人孟子に問て曰く先生齊に勸て燕を伐ふやうにとなふ孟子答にいまだしりうらうとう沙汰あらざるとなふ孟子御ぎょ說日く沈同の問ふ燕の如きハ不義の討伐て可なるんやとこゝに於ておの〳〵その理伐べきなうと

答へ彼そのうふこれを伐ふて彼ら可なると問バ則ち余が對もまた天吏ならバ伐べしとふ

べきなうむふ武王大徳を以て紂王の悪逆を討ぢたてまつり民の苦しみを救ふふ題天の吏とふらのごとくびの如きハ然罪なうやと問ゞ殺べきなうと呑べきなうと誰う

以て燕を伐何為ぞ之を勸めん哉

燕人畔く　王の曰く吾甚だ慙ぢ孟子に慙

陳賈曰く王患うること無かれ王自ら以為ら仁且智なり周公の言ぞ曰く周公與叔仁且智王の曰く悪是何言也管叔を使て殷と監を管叔殷を以て畔く知て之を使ふ

○燕人畔王曰吾甚慙於孟子（齊より燕を破て後燕の人く孟子を齊に畔て齊王の外孟子に慙て之を伐べきと何為にこれを勸めん哉

陳賈曰王無患焉王自以為與周公孰仁且智王曰悪是何言也曰周公使管叔監殷畔知而使之是不仁也不知而使之是不智也仁智周公未之盡也而況於王乎賈請見而解之

ハ是不仁なり知不して之を使ふハ是不智なり仁智周公の言ぞ曰く周公未之を盡さ不而うを況や王ふ於て乎賈請ふ見て而ーて之と解ん

孟子お見ゑ問て曰く周公ハ何人ぞ曰く古ーくの聖人也曰く管叔を使て殷を監す管叔殷を以て畔く有諸曰く然り曰く周公其畔りを將と知て而ーて之を使ふ與曰く知

大夫陳賈曰く王何ぞ心ふ古への周公と御自身と仁智ならざるを王の曰く悪何ーぞやうの言を出さ陳賈又曰く昔者周公其の兄管叔と殷の監ーつくしようそのうち管叔の畔くを知て之を殺う周公始ようく管叔の為人を知てこれをろさ使ふハ是不仁なり若知ざることなくバ是智あら不ざる況や　王ふ於て　亟ろとべーしと解

見孟子問曰周公何人也曰古聖人也曰使管叔監殷管叔以殷畔也有諸曰然則聖人且有過與曰周公弟也管叔兄也周公之過不亦宜乎

不然らざれば則ち聖人も且過ち有與曰く周公は弟なり管叔は兄なり周公之過ち亦宜ならずや

且古への君子過てば則ち之を改む今之君子は過て則ち之に順ふ古への君子其過ちは日月之食の如し民皆之を見る其更るや皆之を仰く今之君子豈徒に順之に辭を為んや

周公は何人ぞや曰く古への聖人なり曰く管叔の畔くや孟子の曰く古への聖人なり曰く然り聖人も過ちありや曰く周公は管叔は兄なり周公の過や宜ならずや且古之君子過則改之今之君子過則順之古之君子其過也如日月之食民皆見之及其更也民皆仰之今之君子豈徒順之又從而為之辭

○孟子致爲臣而歸

孟子臣為るを致して而して歸る

王就見孟子曰前日願見而不可得得侍同朝甚喜今又棄寡人而歸不識可以繼此而得見乎對曰不敢請耳固所願也

王就く孟子を見て曰く前日見るを願て得ず得て侍同朝するを得て甚だ喜ぶ今又寡人を棄て而して歸る識不以て此を繼で見ゆるを得可んや對て曰く敢て請ざる所なり

他日王時子を謂て曰く我中國を以て孟子を養ふを萬鍾を

室養弟子を以て曰我欲中國而授孟子

他日王謂時子曰我欲中國而授孟子

萬鍾使諸大夫國人皆有

以一諸大夫國人を使
皆矜式する所有ん
く欲す子盍ぞ我
為ふ之を言盍時
子陳子之因く以て
孟子ふ告陳子時子
之言を以く孟子ふ
告

孟子の曰く然り夫
時子悪らんぞ其不
可を知ん如一予ふ
富を欲せ使ふ千萬
を辭一と、萬を受
く是富を欲をと
為ん

李孫曰く異しき哉
子叔疑已ふ政どを為
使用ひ不ハ則ち亦已
又其子弟を卿
と為使む人亦
執う富貴を欲せ不
ん獨富貴之中ふ
於く龍斷を私一
すること有

退き今一万種を受べ一との事なく
貧ふ〳〵何ぞ留まるの理あんやとなう　李孫曰

異哉子叔疑使己為政不用則亦已矣
又使其子弟為卿人亦孰不欲富而
獨於富貴之中有私龍斷焉　孟子昔を引て論一ふ李

所矜式子盍為我言之時子因陳子而
以告孟子陳子以時子之言告孟子

他日王ふう時子という者ふ我心一願ことハ國の中にて
学校を建て孟子に授け萬鍾ふどの穀祿を以て弟子を
養ひて大夫ふ〳〵國人に矜式を教へ示さんと欲一に
盍ぞ一ふ言ざるやとそれ一依て時子ふう孟子
の門人陳子に傳語ふ〳〵ハまさ陳子ふう
孟子へ告ふうふう萬鍾ハ六万四千斛ふう　孟子曰然矣

時子悪知其不可也如使予欲富辭十
萬而受萬是為欲富乎　九十ふう者道を行
苟にいふ言用らるゝ」ことそうう孟子の齊を去るもその義同一きふう然ど齊王
に於て顯一ふ言ざる事なう故一曰く夫時子悪う其理の
不可一ふけを知んや前日卿相の位一て十万種の祿をも辭

古之市を為者ハ
其有所を以て其無
所ふ易る者なり有
司の者之を治る耳
賤丈夫有必らん

退き今一万種を受べ一との事なく
貧ふ〳〵何ぞ留まるの理あんやとなう　李孫曰

異哉子叔疑已ふ政どを為使用ひ不ハ則ち亦已矣
又使其子弟為卿人亦孰不欲富而
獨於富貴之中有私龍斷焉　孟子昔を引て論一ふ李
孫とふう人ふの子叔疑ふ政ふ舉ふ重を異ことゞめて曰くそれ子
叔疑ハ已ふ大夫となるをハ政道をふざるより一君ふ用らるゝをハ
官祿を子や弟へ以づ嗣一しめその身ハ隱居をなし一くまつ
ぞ〳〵凡そ人誰う富貴を欲ざらん然どる子叔疑ふ如きハ
富貴の中一そて龍斷と為一ふのなう龍斷とハ龍ハ山ふ土
を盛上て斷て高きふのなう此上一そて諸方を見渡しそ
其所以ぞうにそうう　古之為市者以其所有易其
所無者有司者治之耳有賤丈夫焉必

龍斷を求めて之れを登る以左右を望て市利の利を罔を人皆以て賤と為故ゆゑを従つて之を征ること此賤丈夫自始まる

求龍斷而登之以左右望而罔市利人皆以為賤故從而征之征商自此賤丈夫始矣

古の市街の賣買となる、此と有りのと彼と毎の土地う不自由なく拘非常の為ゝ有司これを見ることなう然ゝその中に賤き丈夫ありてゝのの龍斷をかまへて高よう左右四方をのぞきて市街の利を沿正なるとのくなくとりて手のみるようゝ人くる是を賤ゝ

孟子齊宿於晝有欲爲王雪行者

みまれゝ依てかの丈夫のまるに從て右征税をとりゝ始まりゝとかや君子利欲を離ゝ斯のに

○孟子去齊宿於晝有欲爲王雪行者

右のち孟子遂に齊をさうるまひて晝と云

坐而言不應隱几而臥

処ゝ一宿あり時ゝ一人ありて王の為に立行ことを留んと欲りのありその客ゝ坐ゝ就て語ゝるに孟子

客悦こび不曰く弟子齊宿而後夫子卧て聞ゝ客不悦曰弟子齊宿而後

ゝて後ゝ敢て言ふ夫子卧て聽不請復敢見矣曰

敢て見ゆること勿らん曰く坐セ我明らゝふ子ゝ語らん昔者魯の繆公子思之側ゝ人無まバ則ち子思を安んぜること能ハ不

坐我明語子昔者魯繆公無人乎子思之側則不能安子思泄柳申詳無人乎繆公之側則不能安其身

ぎりて曰くれ今先生ゝ對ちんが為ゝ倘ふ身を潜ひ夫子ハ卧て聽うハび見ることを欲ざるとを敢て言出セうゝに重ゝ

語風さん昔者魯の君繆公賢を好で子思を尊ひ常に子思の側ゝ自身の賢人を恭敬とりゝ意を子思へ通ぜらんやと心を安ぜらる事あるべきを泄柳申詳の二人ゝ賢者ゝそ同く謀公に

子長者の為不慮
むかりしに子思不及
ばず子長者を絶
子長者子を絶平

孟子齊を去る尹
士人に語て曰く王
之以て湯武為可
らざる不を識不ば
則ち是不明なり
其不可を識て

事し然うたば此二人ば繆公の側に賢ば者ば尊敬すべき
りのなうぐ忠言を奉ぎうう穆公の胸中徳を好の
心そうくちどの人かうれば繆公の我くを恭敬こころ
如何薄うんやと心を安おどうことあくばどとなう
子思よ劣是子とば
自うううとなへうう子為長者慮而不及
子思子絶長者乎子長者の為に
思ひてうとらへぐも却て齊王繆公の子思を敬ぎうたば
及ばざ元より齊王の意より出るれあらおどしてもまく
子より長者を
義絶ぎうう

○孟子去齊尹士語人曰不識王之不
可以為湯武則是不明也識其不可
然且至則是千澤也千里而見王不遇
故去三宿而後出晝是何濡滯也士
則茲不悦孟子齊を去うう時尹士らくへる者人に語
折うく千里うて王に孟子うのくび王の性質の湯王武王の
今晝の宿までに三日をうる事ば何ゆへうやうに濡滯
徳なきをも知ぎうて然も且至ば是恩澤をもさぎうう
成就不可を識て去るかくやうと
とうや孟子のふるまひ我くば不悦となうう高子以告曰夫尹士
悪知予哉千里而見王是予所欲也不
遇故去豈予所欲哉予不得已也御川人高子と
いふ人尹子のうばさを告ぐくば孟子の曰くなの尹士悪う
予心を知んや千里と厭ぎて王に見ーば是予ぐ
欲ところなうさ今遇ざるゆへうとち去ことば豈よ
欲とかうんやうん已ことを得ざるゆへなう予二

然うて且至るば則ち是澤を千里うて王に見へ遇不ば故に去三宿うて而うて後に晝を出是何ぞ濡滯なる士ば則ち茲悦こび不

高子以て告ぐ曰く夫尹士悪んぞ予を知ん哉千里うて王に見ゆ是予が欲まる所也遇不が故よ去豈予が欲まる所かう哉予已ことを得不也

病而出晝於予心猶以爲速王庶幾改之王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予雖然豈舍王哉王由足用爲善王如用予則豈徒齊民安天下之民舉安王庶幾改予日望之小丈夫然諒於其色沮於其氣悻悻然見於面予不忍也去王而宿然後浩然有歸志

尹士語人曰不識王之不可以湯武爲不智識其不可而猶來是不明也千里而見王是小丈夫之所爲也夫子三宿而出晝於予心猶以爲速王庶幾改之王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予雖然豈舍王哉王由足用爲善王如用予則豈徒齊民安天下之民舉安王庶幾改予日望之小丈夫然諒於其色沮於其氣悻悻然見於面予不忍也去王而宿然後浩然有歸志

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

尹士聞之曰士誠知小人也

孟子齊人也士聞文王之風興起而後興者凡民也若夫豪傑則雖無文王猶興

尹士之聽孟子之言而以爲小人也宜矣

或以告孟子孟子曰夫尹士惡知我哉千里而見王是予所欲也予豈得已哉我三宿而出於齊王猶有欲留之意王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也予然後浩然有歸志予豈若是小丈夫然哉諒其君不能受己之善而不受則怒悻悻然見於其面予不忍見之去則日之力而後宿

曰く彼も一時なり此も一時也

五百年ありて必ず王者有て興る其間必ず世に名ある者有周由而來七百有餘歲其數既に以てせバ則ち過ぎ其時を以て之を考ふるべ則ち可なり

色ある理なり

曰彼一時此一時也

彼時にいひハ此時の事ハ慨歎べきことの重きなり

百有餘歲矣以其數則過矣以其時考之則可矣

如何と考ふるバ古今を考ふるに大凡三百年を經ざるに王道仁義の君興る例の

五百年必有王者興其間必有名世者由周而來七

もあり又至つて皆五百餘年數ふるに

天未ず天下を平治せんと欲せ未如

欲せバ當今之世我

未欲平治天下也如欲平治天下當今

年なり其間に聞ふる舉陶伊尹太公望萊朱の徳者なり然ふるを今ハ周より七百年餘り千年數ふるに

之世舍我其誰也吾何爲不豫哉

我思ふに天數未だ天下を平治せざる若天下の平治を欲ふらバ今の世にて我を舍ふ

用ひざるバ誰あらん是顔色の不豫色所以

○孟子去齊居休公孫丑問曰仕而不受古之道乎

齊を去て休とふ処に居て公孫丑の問なふ齊に仕ふる時

受祿古之道乎

祿を受ざるハ古の道にそや

而有去志不欲變故不受也繼而有師命不可以請久於齊非我志也

曰非也於崇吾得見王退

非也とハ子細あり崇にて王に見ふる時已に徳を好ふの薄きを非ると雖も已に去んと

を舍て其誰ぞ何為ぞ不豫せん哉

孟子齊を去て休ふ居ふ公孫丑問て曰く仕へて祿を受不ハ古ふへの之道乎

曰く非也崇ふ於て吾王ふ見を得ふ退て去志ざし有變ふを欲せ不故ゆへふ受不也繼で師命有りて請可うふ不齊ふ久ふきハ我志

滕文公章句上

滕文公爲世子將之楚過宋而見孟子

世子と八太子こそ未だ世を嗣ざる時の稱ぢ之んとは往なり宋を過て孟子の館へ立寄給ふなり

孟子性善言必稱堯舜

孟子の御詞常八定まりて此事ぞ

世子自楚反復見孟子孟子曰世子疑吾言乎夫道一而已矣

丈夫は指す詞

心ざしある人ハ師等の命令万事に從ひ給ふ事まげく敷諫ぢなくしてなるまじ

元來齊王久く居とハ固よ

滕文公爲世子將之楚過宋而見孟子

世子と八太子こそ未だ世を嗣ざる時の稱ぢ之んとは往なり宋を過て孟子の館へ立寄給ふなり

孟子性善言必稱堯舜

孟子の御詞常八定まりて此事ぞ

世子自楚反復見孟子孟子曰世子疑吾言乎夫道一而已矣

丈夫は指す詞

人の性八上下なくて始より善なり人八たゞ始へきを失ひ惡に陷るまでなりとそらゝも堯舜を性質を

孟子曰世子疑吾言乎夫道一而已矣

丈夫は指す詞

成覸謂齊景公曰彼丈夫也我丈夫也吾何畏彼哉顏淵曰舜何人也予何人也有爲者亦若是公明儀曰文王我師也周公豈欺我哉

成覸齊の景公を謂ふこゝにて又孟子へ立ようふ是八孟子の性善のこと

君子の道小人の道ハ孟子依て曰く道八一ぢ脇のみこそ疑ふ所以なとのぶ

成覸謂齊景公曰彼丈夫也我丈夫也吾何畏彼哉顏淵曰舜何人也予何人也有爲者亦若是公明儀曰文王我師也周公豈欺我哉

君子の道小人の道そ天理よ於てハ別なう一ぢ普成覸とゝもに丈夫なう我も又丈夫なう吾何ぞ彼を畏んや顏淵も又曰く古への舜帝も何人なうんや人なうんや人よ異なうんや予こそもゝ何人なうんや人なうんや人よ異なうんや予こそもゝ

の如く有とうれ公明儀もまた曰く文王ハ我師ともつゞく人志ざしあらバ誰う文王の如くなるまでとゝらん人の理もめとゝもに聖人周公の言を味ハひこまでを行まで いつでら周公我を欺ちくべくんやと

今滕絕長補短

今滕長く絕て短きを補なひ

將ふ五十里ならんとし將猶以て善國と為ん可し書ふ曰く若藥眼眩せ不ば厥疾瘳不

滕の定公薨ず世子然友ふ謂て曰く昔者孟子者孟子嘗く我與宋ふ言心ふ於て終ふ忘不今不幸にして大故ふ至ること吾子使ふく孟子ふ問然うして後ふ事を行なうん欲き

然友鄒ふ之く孟子問孟子孟子曰不亦善乎親喪固所自盡也曾子曰生事之以禮死葬之以禮祭之以禮可謂孝矣諸侯之禮吾未之學也雖然吾嘗聞之矣三年之喪齊疏之服飦粥之食天子達於庶人三代共之

將五十里也猶可以爲善國書曰若藥不瞑眩厥疾不瘳（今ノ滕ノ國長短ヲ絶ヘバ大抵五十里四方ナラン然ハ道ヲ用ルニ善國ナラン書ハ經ノ名ニシテ曰ク凡ソ藥ト云者ハ病ノ瞑眩スル程ニ苦クアラデハ病ヲ癒ス事ナシ政道ヲ行ハンニモ嚴ク法令ヲ立テ剛毅ヨ日ヒテ寛ク仁ヲ施サレバ能キ國ヲ直シ政道ヲ善ク行ハレヌル事ハ常ノ情弱心ヨリ起ル事ナリ）

○滕定公薨世子謂然友曰昔者孟子嘗與我言於宋於心終不忘今也不幸至於大故吾欲使子問於孟子然後行事（滕ノ定公薨去シ給ヒシ時世子丈公ノ亂然友ヲ師傅トシテ我ト宋ノ地ニテ御言談ノ事アリシヲ今ヤ我不幸ニシテ大故ニ及ヌ吾子ヲ以テ孟子ヘ尋ネ問ヒ其ノ後ノ事ヲ行ハンヤト父母ノ死ヲ

然友鄒ニ之キ孟子ニ問フ孟子曰ク不亦善キ乎親ノ喪ハ固ヨリ自ラ盡ス所也曾子曰ク生ケル事ヲハ之ヲ養フニ禮ヲ以テシ死スレバ之ヲ葬ルニ禮ヲ以テシ之ヲ祭ルニ禮ヲ以テスト謂ヘリ孝ト可シ諸侯ノ禮吾未ダ之ヲ學ビ未ダ然リト雖モ吾嘗テ之ヲ聞ケリ三年ノ喪齊疏ノ服飦粥ノ食天子自リ庶人ニ至ルマデ三代共ニ之ヲ

然友反命 定ム
三年之喪ヲ為父兄
百官皆欲ス不曰
く吾宗國魯ノ先
君之ヘヲ行ナヨト
莫吾先君亦之ヲ
行ナヤト莫子之
身ニ至テ而ノ
ヲ反ス不可ナリ且
志ヨ曰喪祭先祖
ニ従ヲ曰く吾之
ヲ受ル所有

然友ニ問テ曰く吾
他日未ダ嘗テ學問

天子ノ使人ハ
礼ヲ達シ其通ヲ
礼ヲ以テ三代ノ聖人共ニ
然友反命ス定為
魯先君莫之行ヲ吾
於子之身而反之
先祖曰吾有所受之也
志ニ録スル喪ト祭ノ事ハ先祖ノ例ニ従ヘシトノ
行ヒヲノ莫吾先君モ之ヲ
反ク、不可ナリ且く吾宗主ノ家ニ魯ノ
官人父兄ノ之ヲ不欲ス
三年ノ喪中ヲ為ニ
百官皆不欲曰吾宗國
吾先君亦莫之行也至
然友ノ其ノ趣ヲ反命
ス定ル
三年之喪父兄百官
於子之身而反之不可且志曰喪祭従
先祖曰吾有所受之也
然友之ヲ
謂然友曰吾他日未嘗學問好馳馬試

セ不カリシヲ馬ヲ馳
剣ヲ試ム今ノ父兄百官
我ヲ足不ラシ、其
大事ヲ盡ス能ハ不子我為ニ孟
子ニ問然友復命
ス之孟子ニ問
孟子ノ曰く然リ
く他ニ求ム可ラ
不者也孔子曰く
君薨シテ冢宰ニ
聽粥ヲ歠ク面
深墨ノ如ク位ニ即
テ而シテ哭ス百
官有司敢ク哀
不ル敢之ヲ先ス
上ニ好ム者有バ

剣ヲ試ム今ノ也父兄百官不我足也恐其不能
盡於大事子為我問孟子然友復之鄒
問孟子 世子然友ヲ語テ曰く吾他日未ダ嘗テ学問ヲ
馳ヲ馳ル剣ヲ試ムト今ニ於テハ然友鄒ニ
父兄百官ノ輩ヲ我為ト気ヨ足ラシト恐ク此度ノ大事ヲ
盡ス能ハ孟子ヘ御問ナヘシトノ然友鄒ニ之ヲ
孟子曰然不可以他求者也孔子曰君
薨聽於冢宰歠粥面深墨即位而哭百
官有司莫敢不哀先之也上有好者下
必有甚焉者矣君子之徳風也小人之
徳艸也艸尚之風必偃是在世子

下心必悦焉より甚きはなし君子の徳ハ風小人之徳ハ草草之ニ風ヲ上ニ加ハレバ必ラズ偃是世子ニ在リ

孟子の曰く然ルベキ哉世子ハ能ク事ヲ知レリ夫レ事ハ誠ナラバ聖人モ仰セラルヽ今日君の薨去アラセラルヽハ万事ハ冢宰ニ寄託シテ君ハ専ラ自然ト凶哀ニ服シテ哭泣ノミナリ百官有司ノ者ニ至ル迄皆君ノ哀戚ヲ見テ哀戚ヲ尽シ上ヲ仰ギ下ヲ見テ各ノ其職ヲ勤ムルハ何ゾ御好ミアラセラルヽハ下ナル人ノ必ズ倣ヒテ好ムモノナレバ是我身ヲ徴ニ先ダチテ見ヲ示シ小人ノ徳ハ風ナリ風吹ケバ草偃ス如ク世子ノ徳ニ感ジ服スルノ心ヲ然友友命ニ世子曰ク然リ是誠ニ我ニ在リ昔五月廬ニ居ル未命戒有ラズ百官族人可謂知及ト

然友友命世子曰然是誠在我五月居廬未有命戒百官族人可謂曰知及至

葬四方来観之顔色之戚哭泣之哀弔

然友又ノ名ハ友命ハ世子ノ師ナリ誠ニ然リ諸事ノ命戒モセデ勤ムルハ君ノ徳ヲ知ルト云ヘリ

者大悦

然友友命ニ世子曰ク然リ是誠ニ我ニ在リ昔五月廬ニ居ル未タ命戒有ラズ百官族人可謂曰ク知及ト至ルヲ観ル顔色ヲ之戚ヲ哭泣之哀シ弔者大悦ブ

滕の文公國を治む来観て文公の顔色の戚を見うけ哭泣の体をなして大に悦びぐうとそ

滕の文公國を治む来観て文公の顔色の戚を見うけ哭泣の体をなして大に悦びぐうとそ

○滕文公問爲國孟子曰民事不可緩也詩云晝爾于茅宵爾索綯亟其乘屋其始播百穀

民の事ハ緩にも可からず詩小云晝ハ爾ち于ニ茅ヲ宵ハ爾ち索綯ヘやう亟ハ其屋ニ乗ヨ其始ハ播ヘて百穀ヲ

民之道爲恒の産有者ハ恒の心有恒の産無者ハ恒の心無苟ニ恒の心無レバ放辟邪侈為不ト無ニ已罪ニ陥ルヲ及テ然ル後ち従テ之ヲ刑ヲ是

民之道爲恒の産有者ハ恒の心有恒の産無者ハ恒の心無苟ニ恒の心無レバ放辟邪侈為不ト無ニ已罪ニ陥ルヲ及テ然ル後ち従テ之ヲ刑ヲ是罔民也焉有仁人在位罔民而可

晝ハ昼ニ宵ハ夜ヲ索ハ縄ヲ綯ハ索ヲ亟ハ急ナリ乗ハ升ルナリ詩ハ豳風七月ノ篇ナリ

○滕文公問爲國孟子曰民事不可緩也詩云晝爾于茅宵爾索綯亟其乗屋其始播百穀

民之道爲恒の産有者ハ恒の心有恒の産無者ハ恒の心無苟ニ恒の心無レバ放辟邪侈為不ト無ニ已罪ニ陥ルヲ及テ然ル後ち従テ之ヲ刑ヲ是罔民也焉有仁人在位罔民而可

爲也是故賢君必恭儉禮下取於民有制
前篇に出づ　民ハ産業あまゝ心も美我理と失ふ
ハざる是の故ゆゑに賢なる君ハ身を恭倹引下て下るる賢人
ハ小礼を尽さゝ民に公用を取ることなる制ふるふ
爲仁不富矣陽虎も悪人なるまじ一事一のなることも詞の主意ハたゞ
富貴ハなるとも仁心ハてきぬゆゑの
あゝ人をいましめんとやらん欲を放りべし夏后氏五
十而貢殷人七十而助周人百畝而徹
夏の后の代ハ一人さへ五十畝を受て年貢をくくる殷
の代ハ七十畝なる周ハ始て百畝ゆゑ其年貢の
法ハ實ハ十分一を上へくるなり徹とハ均く天下に通徹
なる心なり助ハ民の力を藉て公用の助とくる心なり
其實皆什一也徹者徹也助者藉也

龍子曰治地莫善於助莫不善於貢貢者校數歲之中以爲常樂歲粒米狼戾多取之而不爲虐則寡取之凶年糞其田而不足則必取盈焉爲民父母使民盼盼然將終歲勤動不得以養其父母又稱貸而益之使老稺轉乎溝壑惡得爲民父母也

龍子曰く地を治むる助より善ハ莫し貢より善ふるハ莫し貢者數歳之中を按じ以て常と為す樂歳ハ粒米狼戾多く之を取て而して虐を為さゞるも則ち寡之を取る凶年ハ其田小糞ふり而して足ざるも則ち必ず取盈民の父母と為て民ゝ盼盼然として終歳勤め動て以て其父母を養ふことを得不と將又

稱貸而之 あるなり 凶年には田ゟ糞こゑ養ふ 然ども常の定あるをバ取べきそとハ盈滿ゟ取ゟう 依て民ども を使溝洫ゟ轉ゟ悉 んぞ其民の父母為 ゟんや 賑恤然ゟうゟ 嘆ことなく 終年ゟそでも 勤動て父母妻子 を 養ふ 育ことを得 ぎそのうへ 上ゟ引 おぐるゟ 完ハえ利 ゟ 夫祿を世ゟする ハ 勝固ゟう 之を行ふ 理ゟう 逐ゟ困窮ゟ及で 倉る時ハ老ゟる 稱 貸 ゟさゟ 溝に轉

詩ゟ云く 我公田に雨 て遂ゟ我私ゟ及ぶ 惟助公田有と為 此ゟ由て之を觀れ 周ゟ雖ども亦助 ゟろ

公田遂及我私惟助為有公田由此觀之雖周亦助也

詩經ゟる。民どもゟ上を親ゟ戴ひて 誦てバゟ曰く天何ぐそ雨 ゟうゟる

序學校を設け 曰殷ゟ序と 曰周ゟ庠と曰學ハ 則ち三代之を共ゟ を皆人倫を明ゟ ゟる所以ゟる人倫上 ゟ明ゟーて小民下 ゟ親しむ

臣下へ傳へうゟハ勝固ゟ 法ゟゟ行ぎざるのゟ 助の法ハ下たのべうう

夫世祿勝固行之矣

詩經ゟる。民どもゟ上を親ゟ戴ひて 誦てバゟ曰く天何ぐそ雨 ゟうゟる

校殷曰序周曰庠學則三代共之貫所

て以て之を教ゆ 此ゟ由て觀ゟぎバ周も 助法を用ゐーなゟ

以明人倫也人倫明於上小民親於下

産業ゟぐゟく定めゟひ学 の代ゟハ学校の名を校 なゟ 殷の代ゟ序と名づく 射の字義ゟて 弓へ君子の学 りのうて之を習ことを 主意ゟん 鄭ゟハ庠と名づく 養のもゟて老ゟるを 三代ともに同じてなゟ 庠ハ上ゟ人倫明ゟうなゟ 道ありてゟくゟゟーむ

之庠者養也校者教也序者射也夏曰

王者起ることあバ 必ゟぐ来て法を取 是を王者の師ゟ為 詩曰周舊邦ゟ雖 も其命維新ゟう 文王之謂也子力め

是為王者師也有王者起必來取法

誠ゟ王ゟる人も 来て法を師とまぐーむ 詩曰周雖舊邦其命維

て之を行ふ亦以て子之國を新みせん畢戰を使て井地を向ふ孟子の曰く子之君將ㇾ行ㇾ仁政を行へんとし將ㇾ選び擇ん而子を使ふ子必ら勉之を勉めよ夫仁政ハ必ら從ㇾ經界ㇾ自始まる經界正ㇾ不ㇾバ井地均ㇾ不ㇾ穀祿平らㇾ不ㇾ是故ㇾ暴君汗吏必ず其經界を慢る經界既に正ㇾ分ち祿を制ㇾ田を分ち

新文王之謂也子力行之亦以新子之國詩經の周ハ年舊さ邦なれども文王に至て仁政王道行ふべきを推擴を張ㇾハ天の命なく常なきを知ㇾ故に畢戰を使て井地を新にせんとす子も力行なば必ず滕國を新にすべし使畢戰問井地孟子曰子之君將ㇾ行ㇾ仁政選擇而使ㇾ子必勉之夫仁政必自經界始經界不正井地不均穀祿不平是故暴君汗吏必慢其經界ㇾ而已正ㇾ既正ㇾ分田制祿可ㇾ坐而定也

夫滕壤地褊小將君子焉將野人焉無ㇾ君子莫ㇾ治ㇾ野人無ㇾ養ㇾ君子莫ㇾ治ㇾ請野九一而助國中什一使自賦

夫滕ハ壤地褊小ㇾ將君子為ん野人為ん將野人為ん君子無ㇾ野人を治むること莫ㇾ野人無ㇾ君子を養ふこと莫ㇾ請野九一而助ㇾ國を中什一使ㇾ自賦ㇾ

圭田五十畝以下必ず圭田有ㇾ餘夫二十五畝

經典餘師

かくされバ井田の法ハ穀祿平のいと易き故に暴君汗吏必ず經界を慢ㇾ經界慢くなれバ穀祿平ならず君又ハ汗吏必ず經界を正ㇾくす經界正ㇾくなれバ分田制祿坐而定ㇾ

野人無野人莫養君子上ハ下を治め下ハ上を養ふべきなり今滕の國褊小なりと雖ㇾ君子ハ不ㇾバ可ㇾ以治ㇾ野人ㇾ野人ハ城近の出入ある用場なき用場のこゝろ

將為君子焉將為野人焉無君子莫治ㇾ

夫滕壤地褊小ㇾ

請野九一而助國中什一使自賦

とも助法ならざれバ依て什分の一の理ㇾして上へ賦稅をとゝ処ハ正くなりぞ

卿以下必有圭田圭田五十畝餘夫二十五畝

先祖を祭る圭田と人の定めハ

死徙鄉を出ること無鄉田井を同じうし出入相友とうし守望相助く疾病相扶持す則ち百姓親睦

方里ホーて井を井ハ九百畝其中を公田とし為八家皆百畝を私とし同じく公田を養ひ公事畢つて然して後ホ敢て私の事を治む野人ホ別所以也

右百畝ありて大抵五人八人ありてそを養ふ然るに兄弟多く恒産なきハ十六の歳より別に田地二十五畝を受くるなり三十の歳ようやく室を入て後ハ田地百畝を受く

同井出入相友守望相助疾病相扶持則百姓親睦

徙ハ井田地のなり人情を厚くするなり死人ありてその家より鄉を出さゞるその一村鄉を同じくして井田を同じうし出入ホ相友

死徙無出鄉鄉田同井

ホ守望など相助あることなり疾病のたぐひ扶持ホ親く睦まじきなり

方里而井井九百畝其中為公田八家皆私百畝同養公田公事畢然後敢治私事所以別野人也

井田の法八一里四方にして此田地の数ハ九百畝あり

夫を九つに分てハ一分ハ百畝づゝなり眞中を公田の百畝とし八軒ハそれを作て公用とするなり八軒の百畝

皆私百畝同養公田公事畢然後敢治私事所以別野人也

私田地なり中ハ公の田地なり公用の事畢て公田の事に及ぶことを野人の別ある所以なり

此其大略也若夫潤澤之則在君與子矣

右の通ハ大略なり若夫それを潤澤ようの事ハ子と君とにかゝる慎しむべし

有為神農之言者許行自楚之滕踵門而告文公曰遠方之人聞君行仁政願受一廛而為氓文公與之處其徙數十人皆衣褐捆屨織席以為食

神農之言を為す者許行有楚自滕ホ之て門ホ踵り文公ホ告ぐ曰く遠方之人君仁政を行ふと聞願ハくハ一廛を受て而して氓為ん文公之ホ處を與ふ其徒數十人皆褐を

神農之言を為す者許行有楚自滕ホ之て門ホ踵り文公ホ告ぐ曰く遠方之人君仁政を行ふと聞願ハくハ一廛を受て而して氓為ん文公之ホ處を與ふ其徒數十人皆褐を

此其大畧也若夫潤澤之ハ則ち君と子與ホ在り

衣屨を捆席と織なり楚より滕の國へ之て文公へ告ぐるハ君の仁心遠方まで也聞ゆ何ぞ此國の氓となりて一ツの廛を受以て食と為

陳良之徒陳相其弟辛與耒耜を負宋自滕小之曰く君聖人之政を行ふと聞く是亦聖人也願ハくハ聖人の氓と為ん

陳相許行を見て大に悦こび盡く其學を棄て而學ぶ陳相孟子に見へて許行之言を道曰く滕の君則ち誠ふ賢君也雖然り未だ道を聞未賢者民與並び耕して而して食を饔飧して而して治む今滕小倉廩府庫有則ち是民を厲まし以て自養ふ也悪んぞ賢を得

孟子の曰く許子必ず粟を種て而して後に食る乎曰く然り許子必ず布を織て而して後に衣乎曰く否許子褐を衣許子冠まる乎曰く冠を曰く奚

陳良之徒陳相與其弟辛負耒耜而自宋之滕曰聞君行聖人之政是亦聖人也願爲聖人氓

楚の大儒に陳良と云る人の門人なり陳相陳辛と兄弟あり

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉

陳相見孟子道許行之言曰滕君則誠賢君也雖然未聞道也賢者與民竝耕而食饔飧而治今也滕有倉廩府庫則是厲民而以自養也悪得賢

陳相それより許行の言を孟子に達てその道を聞大に悦て夫ほど学問賢德の君ハ民と共に竝び耕して朝饔夕飧をも炊て國を治しもの

孟子曰許子必自織布而後衣乎

もろ〳〵の今滕ハ米倉土蔵金府庫内に充滿もの多ハ六民を厲めて自ら養ふの名のよく悪き賢ふとつぐんやうなり

曰否許子衣褐

是ハ孟子君臣と分の説を害ふんとをるものなり

許子冠乎曰冠曰奚冠

曰冠素曰自織之與曰否以粟易之曰

許子奚爲不自織曰害於耕曰許子以釜甑爨以鐵耕乎曰然自爲之與曰否以粟易之

孟子の曰く許子は必ず粟を種て食るや曰く然り又問ふ許子は必ず布を織て後ち衣服とするや曰く否許子は褐を衣り又問ふ然ば許子は冠をなんぞや曰く素を冠す曰自ら織與曰く否粟を以て之と易る曰く許子奚爲ぞ自ら織不曰く耕作に害あり又詰て曰く許子は食物を釜甑ぞや曰く耕作に害あり又詰て曰く許子は食物を釜甑ぞや曰く然り又問ふ許子は必ず布を織て後ち衣服とするや曰く否を許子は褐を衣り又問ふ然ば許子は冠をなんぞや曰く素を冠す曰自ら織與曰く否粟を以て之と易る曰く許子奚爲ぞ自ら織不

人之事有旦一人之身而百工之所爲備如必自爲而後用之是率天下而路也故曰或勞心或勞力勞心者治人勞力者治於人治於人者食人治人者食於人天下之通義也（孟子之辨正をなさんとて右のごとく問ひ仰せあり）

然ハ天下國家を治めまつる耕作を爲てまつり政道をも行ふべくなるべき乎大人の事と小人の事とおのづから別

旦つ人一人の身にして百工のそれぞれに備へんとせバ獨りそれぞれを爲て而後に用んとセバさへつえのそこなひて實に天下の事をみざるに路弓ちうそれぬるむつまり定めて人一ハ心を勞もあり力を勞もあるなり各く人の分あり上ゝ士ゝ庶ゝりのハ心を勞を心を勞りのハ人を治め人を治ろりのハ人ゝ養ハ人ゝ治ろゝなり人ゝ治

堯之時小當つて天下猶未平洪水橫流氾濫於天下艸木暢茂禽獸繁殖五穀不登禽獸偪人獸蹄鳥跡之道交於中國堯獨憂之舉舜而敷治焉舜使益掌火益烈山澤而焚之禽獸逃匿禹疏九河瀹濟漯而注諸海決汝漢排淮泗而注之江然後中國可得而食也當是時也禹八年於外三過其門而不入雖欲耕得乎（人ゝ君ゝりのハ天下の爲に心を勞ゝてゝを說ゝ）

飽食煖衣逸居而教無ㇾ則ㇾ近ㇾ於禽獸聖人有ㇾ憂之使ㇾ契爲ㇾ司徒ㇾ教以人倫父子有ㇾ親君臣有ㇾ義夫婦有ㇾ別長幼有ㇾ序朋友有ㇾ信放勳曰勞之來之匡之直之輔之翼之使自得之又從而振德之聖人之憂民如此

后稷民之稼穡樹ㇾ藝五穀五穀熟而民人育人之有道也飽食煖衣逸居而無ㇾ教則近於禽獸聖人有ㇾ憂之使ㇾ契爲ㇾ司徒ㇾ教以人倫父子有ㇾ親君臣有ㇾ義夫婦有ㇾ別長幼有ㇾ序朋友有ㇾ信放勳曰勞之來之匡之直之輔之翼之使自得之又從而振德之聖人之憂民如此而服耕乎

五穀八后稷つぎつぎ始て樹藝稼穡かさむる等の事を教ふ五穀ミのりて食物十分なれバ万民世ゝ育へもひと安らくたなつぬれそ人ハそれ逸居をうく〳〵くなるハ則ハち禽獣の心うつ近くあさましきなり君臣の礼もなく夫婦道を守ることもなく誠ゝ浅間しき事ども也聖人ふうく憂ひ

后稷民ㇾ稼穡ㇾ樹ㇾ藝五穀ㇾ五穀熟而民人育人之有道也

昔者堯帝天下未ㇾ平定なく洪水横流して天下ゝ汜濫ふう草木ハ暢茂禽獣ハ人間ㇾ一偏りなう中國得て食ㇾ可ㇾ是時ふ當つて禹外ふ八年三たび其門を過て入不ㇾ耕へさんと欲ㇾ雖ども得んや

の如一而して耕
さゝふ服あ〳〵乎

堯舜を得不て以
て已ゞ憂と為舜
禹皐陶を得不と
以て已ゞ憂と為
夫百畝を易不と
以て已ゞ憂と為者
農夫也

父ゝ分つゝ財と以
てまこ之を恵〳〵謂
人ゝ教ゆるゝ善を
以てまこ之を忠と
謂天下の為ゝ人
を得之を仁と謂
是故ゝ天下を以て
人ゝ與ふるハ易く
天下の為ゝ人を得
こと難し

孔子曰ハく大なる
哉堯之君為惟天
大ひなるかな堯之ゝ則
堯之ゝ則とる湯
湯乎〳〵て民能
名ゞること無一君
なる哉舜巍巍
乎〳〵て天下を
有つて與らざる堯
舜之天下を治ろ

契とゝ賢人を挙て司徒の官として学問の道
人の倫を教さそう父子の親愛君臣の義理夫婦の
ゝ別長上幼少の序朋友の信るの五ツと教さそうゝ処動
も仰あ〳〵我天下を治るにハ万民を労ゝ来服さろ者と
バそれを懐け邪まなるハ正直一人を輔てそれをこゝめ力と
翼て道を行さハしむ自各その性つゝた皆めうゝ得さ
しめ又そのうへを振恵ふゝとなろ聖人かやく〳〵民の
事ゝと真愛うゝゆく〳〵中く耕作さるた暇あ〳〵んや

堯以不得舜為己憂舜以不得禹皐陶
為己憂禹以不得百畝之不易為己憂農者
夫也堯帝ハ聖人舜を得ゝハめ内ハ何とそ徳ある人を
民の為たゞ求めろんとそ心憂〳〵舜ハ禹
うゝべ〳〵皐陶の元を得さゝるときハ憂うゝ〳〵りかの
百畝の田地の出来不出来と易きうの事を憂とろ
ハ農人の

分人以財謂之恵教人以善謂之
忠為天下得人者謂之仁是故以天下
與人易為天下得人難人〳〵財を分ち施とを恵とふゝ
人ゝ施とを忠とふゝ又天下を治め万民のゝめゝ徳ある人を
挙て官職ゝと任さろとを仁とふゝりも大ろ事なう
是故ゝ天下を人ゝ譲あろハきごゝろ心易〳〵しろ
いつべ〳〵まで天下の民の為に徳ある人を挙ることゝ実ゝ
難さとなう

孔子曰大哉堯之為君惟天為大
惟堯則之蕩蕩乎民無能名焉君哉
舜也巍巍乎有天下而不與焉堯舜
之治天下豈無所用其心哉亦不用於
耕耳聖人も尭の徳を称〳〵ひて惟天のゝ大
なるにこれ則さゝ尭帝の徳うゝおろうに

豈其心を用ゆる所無らん哉亦耕へ
を用ひざる耳

吾聞夏を用て夷と變ずる者を聞未
陳良楚の産也周公仲尼之道を悦
び北中國に學ぶ北方之學者未能或之先也彼所
謂豪傑之士也子之兄弟事之數十年。
師死而遂倍之

豪傑の士ありて一旦之を倍く
いふハあれど夏ゟ夷よ變ぜらるゝ
ハ楚の産まう中國そハなるれど周公孔子の道と悦こびいそしみて
北の方中國へ来て學問をなせしに中〻北方中國ゟこの
學者もえゝ先と能ハざ彼ハなそに世ゟ所謂あらかじめ

昔者孔子沒三年之外門人治任
將歸入揖於子貢相嚮而哭皆失聲然後
歸各〻反築室於場獨居三年然後
歸他日子夏子張子游以有若似聖人
欲以所事孔子事之彊曾子曾子曰不
可江漢以濯之秋陽以暴之皜皜乎不
可尚已

山朋御一例を説聞し聖人
任をとゝのへ治て各〻國へ帰〻
て親さを以て外く
の門人ゟ子貢の廬へ入て相嚮て哭く

豪傑の士ありて一旦之を師ゝ事て數
十年なるに一旦之を倍く事ハ
いふハあれど夏ゟ夷よ變ぜらるゝ事ハ
ぞや

昔者孔子沒三年之外門人治任
將歸入揖於子貢相嚮而哭皆失聲然
後歸子貢反築室於場獨居三年然後
歸他日子夏子張子游以有若似聖人
欲以所事孔子事之彊曾子曾子曰不
可江漢以濯之秋陽以暴之皜皜乎不
可尚已

天泣失声 そのそうろう一室を壇場に築てもう留居て三年 まをして六年なろう然の後ち帰ーしなに聖人の事を思ひまもらん有君の容貌ハよう〳〵聖人ろう似てその挙動尋常なるをもりて聖人ろ事うるの礼を以て有若事ふるをもりて聖人ろ事うるの礼を以て有若事んをあうて先曽子ハ聖人の道を嗣ぐらん〳〵弟一の御方ゆへ往て伺ひ是非ろとらんとせしかど曽子頭を振りて中〳〵不可となうそれ君子ハ道徳の著明なるをもりて尊んで形の似ようをもらふ事ぇ吾聖人のごとくハ道徳の著ハろ清きをもりかの江漢の流ろ物を濯ぐごとく其大徳の明ろ照をもりかの秋の陽ろ物を暴をごの如くその皜皜乎ととの上ろ尚増ろ微塵もあらんようびえ有若ハ尋常ろ重く師を尊崇ろをもりこれをもこれをもとらへどもこれを聖人ろ比まべきやう有ろと曽子の誤の甚きにてなをろ感服せざらんや

今也南蠻鴃舌之人非先王之道

倍子之師而學子之亦異於曽子矣

小異なう

吾聞幽谷を出て喬木ふ遷ろ者未喬木を下つて幽谷ふ入者を聞未

魯頌ふ曰く戎狄是膺荊舒是懲周公方ふ旦之を膺子是を學亦善変ぜ不ろ為

許子之道ふ從ハば則ち市の賈ひ貳

駅古いかるど鳥なろう南蠻ハろびと詞の分がろに比まろう此心ハ今也許行がつふ処ハ南蛮駅舌の類なう元よう先王聖人の道に非を子ハ陳良が如き明師に倍て行ろ興ろ事ハ訝までもなう聖門曽子の教ろつへハ異なろ

未聞下喬木而入於幽谷遷于喬木者

擇ふ如ー春にうて合ようろ喬木へ飛ろうて遊ぶよう先王聖人の道に非を子ハ陳良が如き明師に倍て行ろ興ろ事ハ訝までもなう聖門曽子の

是膺荊舒是懲周公方旦之子是之

學亦為不善變矣

魯頌ふして魯の僖公の徳を正とかくのごとく頌ーろ中夏と夷狄とを捨て許行ろ從ふごとくハ懲ー改もろ聖人周公方に膺懲めうとなうさわごとうるべきに子ハ儒業を捨て許行ろ從ふごとくハ誠ろ善とに変ぜぬりのなろぞや

從許子之

なり不國中偽り無五尺之童を使市小適と雖も之を欺むくこと或こと莫布帛の長短同じく之則ち賈相若ん麻縷絲絮輕重同くバ則ち賈相若ん五穀多寡同くバ則ち賈相若ん屨の大小同くバ則ち賈相若ん

曰く夫物之齊しからざる物之情也

或ハ倍蓰し或ハ十百し或ハ千萬を子比して之を同くするは是天下を亂る也巨屨小屨賈を同おうせバ人豈之を爲さん許子之道に從バ相率て偽りを爲者也悪んぞ能國家を治めん

墨者夷之徐辟に因て孟子に見ゆるを求む孟子の曰く吾固より見ることを

道則市賈不二國中無偽雖使五尺之童適市莫之或欺布帛長短同則賈相若麻縷絲絮輕重同則賈相若屨大小同則賈相若

寡同則賈相若屨大小同則賈相若

陳相に詞を以て許行が爲に道を取べき者あるその如此その法市井の賈の賈一ならずして詐ることなし

もろもろの八國中も人を欺ざる事なくんバたゞ布帛ハ尺を同くし麻縷絲絮ハその數を同くし五穀ハ升を同くし屨ハ十三四の童子も人も長さ短きを同くバ則ち賈を同くせバ何の爲にか爲ん

長短輕重まて賈を同じくするハ定んと欲をするものなり

曰く夫物之不齊物之情也

或ハ倍蓰し或ハ十百し或ハ千萬を子比して之を同くするは是天下を亂る也巨屨小屨賈を同おうせバ人豈之を爲さん許子之道に從バ相率て偽りを爲者也悪んぞ能國家を治めん

墨者夷之徐辟に因て孟子に見ゆるを求む孟子の曰く吾固より見ることを

情也或相倍蓰或相什伯或相千萬子比而同之是亂天下也巨屨小屨同賈人豈爲之哉從許子之道相率而爲偽者也惡能治國家

孟子曰く夫物の情ハ多くバ少き物の情ハ寡し又五穀ハ播ざるハなし而して同ク生ずるものハ十百千万の違あるべきことハ然るに子比なくて同じくせバ天下の定法を亂るのみ巨屨小屨手の精粗ぬを爲ざるべからざるハ分ちて一物とせバ豈相率て偽をなす者とらざるべし悪ぞ國を治ることの理あらん

○墨者夷之因徐辟而求見孟子孟子曰吾固願見今吾尚病病愈我且往見

願ふ今吾尚病病
ひ愈て我且往て
見夷子來不
他日又孟子小見ゆ
るを求む孟子の曰く
吾今ついて見可直
ちく不ハ則ち道見
つるこ不我且之を直
小ぜん吾聞夷子ハ
墨者墨之喪を
治むる薄きさを以て
其道を為夷子以て
大下を易へと思豈以
て是こ非さと為
而して貴ばざらん
然ども夷子其親を
葬ることく厚ー則
ち是賤む所を以て親
小事ふる也
徐子以て夷子小告
ぐ夷子曰く儒者
之道古ー人赤
子を保ふろう若ー
此言何の謂ぞ之則
ち以て愛ふ差等
無と為施こー親
由始まる徐子以て
孟子小告ぐ孟子の
曰く夫夷子信ふ
以為く人の其兄
之子を親ーむ其
鄰之赤子を親むる
若ーと為彼取こ
と有て爾リ赤子

孟子曰吾今則可以見矣不直則道不
見我且直之吾聞夷子墨者墨之治喪
也以薄為其道也夷子思以易天下豈
以為非是而不貴也然而夷子葬其親
厚則是以所賤事親也
對面よべーとなう
吾試こて直ー言べーかの
然ハ其師墨子ハ親の喪を治むること薄こさと道こん然た
夷子ハ厚く喪を執行ふくり元来夷子の心ふ墨子の道と

ちこころて親ふろうるとりのなりそ
徐子以て夷子小告ぐ若ー
此言何の謂ぞ之則ち以て愛ふ差等
無と為施こー親由始まる徐子以て
孟子小告ぐ孟子の曰く夫夷子信ふ以為く人の其兄之子を親ー
む其鄰之赤子を親むる若ーと為彼取こと有て爾リ赤子
是とやんぞー天下の風をも我道ふかんと
ろうや然る乞今親の喪を厚くそうひー八師の賤む
曰儒者之道古之人若保赤子此言何
謂也之則以為愛無差等施由親始徐
子以告孟子孟子曰夫夷子信以為人
之親其兄之子為若親其鄰之赤子乎
彼有取爾也赤子匍匐將入井非赤子
之罪也且天之生物也使之一本而夷
子二本故也

匍匐往之ヲ見其顙泚ルコトアリテ親不夫泚スルニ非ス人為ニ泚スルニ非ズ中心面目ニ泚ヲ蓋シ歸テ藁裡ヲ反シテ而シテ之ヲ掩フ誠ニ是也則チ孝子仁人之其親ヲ掩フ亦必ラシ道有リ

徐子以テ夷子ニ告グ夷子憮然トシテ為間ク曰ク之ヲ命ゼ

經典餘師

葬ニ上世嘗テ其親ヲ葬ムラス不者有リ其親死スルヲバ則チ擧テ之ヲ委ニ於壑ニ他日之ヲ過リ狐狸之ヲ食ラヒ蠅蚋姑嚙之ヲ其顙有リ泚ルコト睨ラレテ不ル能ハ視ル夫泚スルコト也非ス為ニ人ニ泚ルニ中心達ヲ於面目ニ蓋シ歸テ反シテ藁裡而シテ掩フ之ヲ誠ニ是也則チ孝子仁人之掩フ其親ヲ亦必ラシ道有リ矣

孟子又說ク夷子ノ親ヲ厚クスルヲ正道ニ服セシムル證據ヲ遂ニ彼ヲ實ハ達ノ時ノ親ノ死ル事ヲ歸テ見ルニ狐狸蠅蚋姑嚙ル其ノ他日ノ地ヲ過テ見ルニ狐狸蠅蚋姑嚙ル其ノ額ニ泚ヲ見ルニ忍ビ不ル能ハ視ル之ヲ故ニ歸テ反シテ藁裡ヲ而シテ掩フ之ヲ誠ニ是也則チ孝子仁人之掩フ其親ヲ亦必ラシ道有リ矣

徐子以テ夷子ニ告グ夷子憮然トシテ為間ク曰ク之ヲ命ゼ

經典餘師

孟子二　滕文公章句下　五十九　正德庫藏

葬ニ其親ヲ者上ノ日過之ヲ狐狸食之ヲ蠅蚋姑嚙之ヲ其顙有リ泚ルコト睨ラレテ不ル能ハ視ル夫泚スルコト也非ス為ニ人ニ泚ルニ中心達ヲ於面目ニ蓋シ歸テ反シテ藁裡而シテ掩フ之ヲ誠ニ是也則チ孝子仁人之掩フ其親ヲ亦必ラシ道有リ矣

徐子以テ夷子ニ告グ夷子憮然トシテ為間ク曰ク命ゼ

經典餘師

葬ニ上世嘗テ其親ヲ葬ムラス不者有リ其親死スルヲバ則チ擧テ之ヲ委ニ於壑ニ他日之ヲ過リ狐狸之ヲ食ラヒ蠅蚋姑嚙之ヲ其顙有リ泚ルコト睨ラレテ不ル能ハ視ル夫泚スルコト也非ス為ニ人ニ泚ルニ中心達ヲ於面目ニ蓋シ歸テ反シテ藁裡而シテ掩フ之ヲ誠ニ是也則チ孝子仁人之掩フ其親ヲ亦必ラシ道有リ矣

匍匐シテ將ニ井ニ入ント將ニ赤子ノ罪ニ非ズ而モ且天ノ物ヲ生ズル之ヲ使本ト二ツ一ヲ夷子本ヲ二ツ一スル故也

蓋シ上世嘗テ其親ヲ葬ムラス不者有リ其親死スルヲバ則チ擧テ之ヲ委ニ於壑ニ他日之ヲ過リ狐狸之ヲ食ラヒ

の道ニ兼愛ヲ為ナリ我師の道ハ親疎の分ナクシテ普ク愛ヲ為ルの心ヲ以テ父母の子ヲ愛ルの親ヲ愛ルヲ為ルが如シトアリ此言ハ何の謂ぞや親ヲ愛スルニ他人の親ヲ愛スルニ差等アルベカラズ吾親ヲ愛スルニ始メヨリ厚ク親ヲ葬リ然ル後吾親ヲ愛スルの差等アルベシ夷子ヘ告ゲラレバ孟子之ヲ判断シテ曰ク夫の夷子の以為ハ吾兄の子モ隣の子ヲ愛スルの心モ同ジト自身の道ヘ取用ヒとの有テ再ラビ之ヲ語ハ万民愚知ヲ悟ラシテ井の中ヘ落入ラントスルヲ救ヒ法ヲ犯シテ罪ニ陥ルヲ救フ如クナルヲ為ルヲ詞ヲ旦ク天の物ヲ生ズル本ハ一ツニシテ二ツアルの理ヲ以テ人ヲ薄ク及ビ本ヨリ及ビ末ノ差ノ等ニ於テ厚キヲ為ルヲ以テ夷子ハ本ヲ以テ末ヲ為ルヲ以テ厚キヲ為ルヲ以テ葬ニ其親ヲ者上ノ日過之ヲ狐狸食之ヲ蠅蚋姑嚙之ヲ其顙有リ泚ルコト睨ラレテ不ル能ハ視ル夫泚スルコト也非ス為ニ人ニ泚ルニ中心達ヲ於面目ニ蓋シ歸テ反シテ藁裡而シテ掩フ之ヲ誠ニ是也則チ孝子仁人之掩フ其親ヲ亦必ラシ道有リ矣

徐子以テ夷子ニ告グ夷子憮然トシテ為間ク曰ク命ゼ

經典餘師

孟子二　滕文公章句下　五十九　正德庫藏

滕文公章句下

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之
大則以王小則以霸且志曰枉尺而直
尋宜若可爲也

時孟子天下之諸侯皆已聽聖人之道之戰也宜若賢人之尊也君子自守之貴之理如此欲一見諸侯以行其道之薄也招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之大則以王小則以霸且志曰枉尺而直尋宜若可爲也

時孟子天下之諸侯皆已聽聖人之道之戰也宜若賢人之尊也君子自守之貴之理如此欲一見諸侯以行其道之薄也招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

景公田招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之大則以王小則以霸且志曰枉尺而直尋宜若可爲也

時孟子天下之諸侯皆已聽聖人之道之戰也宜若賢人之尊也君子自守之貴之理如此欲一見諸侯以行其道之薄也招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

景公田招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之大則以王小則以霸且志曰枉尺而直尋宜若可爲也

時孟子天下之諸侯皆已聽聖人之道之戰也宜若賢人之尊也君子自守之貴之理如此欲一見諸侯以行其道之薄也招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

景公田招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之大則以王小則以霸且志曰枉尺而直尋宜若可爲也

時孟子天下之諸侯皆已聽聖人之道之戰也宜若賢人之尊也君子自守之貴之理如此欲一見諸侯以行其道之薄也招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

景公田招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

子孟子之御名虞人掌田獵之官旌以析羽爲之通帛爲旒古者諸侯以皮冠招大夫以旌招虞人以皮冠皆因其所宜而命之也

枉尺而直尋者以利言也如以利則枉尋直尺而利亦可爲與且宿之物而枉尋者欲心之試小利而枉尺直尋以就大利也

尺を枉て尋を直くべしとハこれいうぐたとへバ人の事を枉て尋を直くするもその利欲心をもて試小利を以て

爲可の人のやうぐ

昔者趙簡子使王良與嬖奚乘嬖奚終日不獲一禽嬖奚反命曰天下之賤工也或以告王良良曰請復之彊而後可一朝而獲十禽嬖奚反命曰天下之良工也簡子曰我使掌與女乘謂王良不可一朝而獲十禽嬖奚反命曰天下之良工也簡子曰我使掌與女乘謂王良爲之範我馳驅終日不

昔者趙簡子王良を以て嬖奚と乗と掌どら使王良に謂良可不曰く吾之ぐ爲に範して我馳驅終日うて一を獲不之ぐ爲に詭遇すればハ一朝にして十を獲ようと詩に云其馳る伐失ハ不矢を舎て破ぐ如し我小人與乗を貫不請辞せん

之良工也簡子曰く我女ら與乗を掌どら使王良に謂良可不曰く吾之ぐ爲に範して我馳驅終日うて一を獲不之ぐ爲に詭遇すればハ一朝にして十を獲ようと詩に云其馳る伐失ハ不矢を舎て破ぐ如し我小人與乗を貫不請辞せん

獲一爲之詭遇一朝而獲十詩云不失其馳舍矢如破我不貫與小人乘詩言

なさしむ終日の間一ツの禽をぐも獲ざるハ王良ハ天下の賤工なりとそ或人さのと王良に語るをハ何とそ君ら詰て復御となりて試に來ればハ一朝の間に十禽を獲ふて可るをバ今度ハ一朝に十羽の禽を獲ふて吾專にその方ら馳やくを掌しめむとう大夫簡子王良不可して曰く吾馬術の範を出すて馳驅とハ一ツの禽をも得ざるハ法を重とするゆへうやく法を守らんして詭遇をうるを時ハ一朝の十禽を獲さるなう心のまゝ絲經るも馳法を失ハざる者ハ法を尊ぶべさなり

べし矢の勢カのごく竹を破ごとぐ小人の輩と馬に乗の法ハ貫なりとそ辞退を請ひ

御者且射者與比射者比而得禽獸雖若
丘陵弗為也如枉道而從彼何也且子
過矣枉己者未有能直人者也御者
且猶不可枉己而從人之道況君子乎其
道一而已矣

景春曰公孫衍張儀豈不誠大丈夫
哉一怒而諸侯懼安居而天下熄

○景春曰公孫衍張儀豈不誠大丈夫
哉一怒而諸侯懼安居而天下熄

景春とは能く昔乱世の時公孫衍張儀の二人は一戦をなさしむ
者なり

景春とは人の言を以て諸侯も恐懼をしなり安居は天下の
人ころころ煩となり是等こそ誠の大丈夫ともいふ

孟子曰是焉得為大丈夫乎子未
學禮乎丈夫之冠也父命之女子之嫁
也母命之往送之門戒之曰往之女家
必敬必戒無違夫子以順為正者妾婦
之道也

孟子曰是焉得為大丈夫乎子未學禮乎丈夫之冠也父命之女子之嫁
也母命之往送之門戒之曰往之女家
必敬必戒無違夫子以順為正者妾婦
之道也

孟子曰く是焉んぞ大丈夫為を得んや子未だ禮を學ばざるや丈夫の冠
を為さんとするや父之に命ず女子の嫁するや母之に命ず之を送るの門
に往くや之を戒めて曰く往いて女の家に之くや必ず敬し必ず戒し夫子に違
ふこと無かれと順を以て正しと為すは妾婦の道なり

孟子曰是焉得為大丈夫乎子未學禮乎丈夫之冠也父命之女子之嫁
也母命之往送之門戒之曰往之女家
必敬必戒無違夫子以順為正者妾婦
之道也

孟子曰く是焉んぞ大丈夫為を得んや子未だ禮を學ばざるや丈夫の冠
を為さんとするや父之に命ず女子の嫁するや母之に命ず之を送るの門
に往くや之を戒めて曰く往いて女の家に之くや必ず敬し必ず戒し夫子に違
ふこと無かれと順を以て正しと為すは妾婦の道なり

周霄問曰古之君子仕乎孟子曰仕君子仕乎孟子曰仕之曰孔子三月無君則皇皇如也出疆必載質公明儀曰古之人三月無君則弔魏の人周霄の問なり曰く古の君子も官祿に仕ること傳曰孟子答えて曰く元より仕えることなり傳曰聖人も主君なくして為士の道ハ國疆よりも外へ出るにハ必ず贄となる古の人ハ主君に三月ぞうも離でハ必ず弔の詞あることぞ三月無君則弔不以急乎又周霄の問なり右のごとくいふ三月うして弔をのがるることぞ急乎曰士之失位也猶諸侯之失國家也禮曰諸侯耕助以共粢盛夫人蠶繅以共祭服夫人不蠶繅則不以祭犧牲不成不敢以祭士無田祿亦不祭宗廟之事ハ以て急ぞや諸侯之國家を失ふのごとく猶ほ士之位を失ふなり禮に曰く諸侯耕へして助て以て粢盛供へ夫人蠶して繅て以て祭服供へ夫人蠶繅せざれハ以て祭ること不乎犧牲成ざれハ敢て以て祭ること不乎士無田祿亦祭ること不乎

天下之廣居に居て天下之正位に立て天下之大道を行ひ志ざーを得て民と之由ざーを得不獨ざーを其道を行ふ富貴も淫する能ハず貧賤も移ること能ハず威武も屈ること能ハず此之を大丈夫と謂

居天下之廣居立天下之正位行天下之大道得志與民由之不得志獨行其道富貴不能淫貧賤不能移威武不能屈此之謂大丈夫天下の廣居所ハ天下の主なるぞや其の場所とハ博く愛とらふ仁の道とらふ正を位ハ天子の位ぞうも上うに在て礼を正ーうみなうに大道とハ元そ万物各のく義にかなうあとなうに今仁義と胸うに抱て礼を正ーうふ大徳の人ハ廣居の正ーさ位に在て大道を行ちふ若志ざーと得て世に出バ上うに居て下へ及ぼーー民と與うこれを由べーー時いくぞバ貧賤ふも心を慊を守ふて富貴うも心を淫ぎ身を屈うことなーー真の大丈夫とふりのなう其の操節の權威の武さみも

人蠶繅以爲衣服犧牲不成粢盛不潔
衣服不備不敢以祭惟士無田則亦
祭牲殺器盛衣服不備不敢以祭則不
敢以宴亦不足弔乎　孟子其弔所以
説而爲之辭也
者今日祿位之離
猶之諸侯方祖祖而祭之之時ハ斬
夫人側ようやく衛助かげ田地
助て祭の衣服となり若干の女これを
潔かくて祭でさがくるまバ酒宴るどとも爲
地なるまバ祭らるを以て誰ら弔ざるの
もつとも備らどゝして祭ざるの如くなるを以て
べきの理なりかくの

疆を出るバ必ず贄を載るハ何ぞ
曰く士之仕あるハ農夫之耕もう猶
農夫豈疆を出
ぐ爲ふ其耒耜を舍ん哉曰く晉の國も
亦仕國也未嘗て仕
を聞ず此の如く其急也君子
之仕へ難さハ何ぞ
曰く丈夫生て之が爲ふ室有を願女
子生て之が爲ふ家有を願父母之心人
皆之有父母の命
理あるんやとぞ
鼠の贄を載となんとやや
曰士之仕也猶農夫之耕
也農夫豈爲出疆舍其耒耜哉曰
晉國亦仕國也未嘗聞仕如此其
急仕如此其急也君子之難仕何
曰くそれ士の仕官を爲ハ農夫の田を耕をが如し農夫ハ故
ありて他國へ住居を爲ときハ必ず耒耜を持ゆくべき
なり周霄まさ今晉の國へ仕べきの國なり然ども
未如此急く仕ふるとを願を聞ざるハ何ぞ
事なるた君子ゆようて德を
抱て仕難とあるハ何ぞ
之有室女子生而願爲之有家父母之

心人皆有之不待父母之命媒妁之言鑽穴隙相窺踰牆相從則父母國人皆賤之古之人未嘗不欲仕也又惡不由其道而往者與鑽穴隙之類也

孟子の御答へハ古の人ハ必ず其道に依て丈夫生てハその為に内室の早くうる事を願ハその為に早く家ちんとを願なり女子生て今列士ともの己が為に主君あしき事を願ふ同なくうをく父母の命もなく媒妁もなく穴隙より窺て壁を鑽牆を踰て相従ことハ父母のふくしみ國中なう古の人仕官を欲とらくど道ふ由ざるハ悪べしとの意なり

彭更問曰後車數十乘從者數百人以傳食於諸侯不以泰乎孟子曰非其道則一簞食不可受於人如其道則舜受堯之天下不以爲泰子以爲泰乎

○彭更問曰後車數十乘從者數百人

門人彭更の問なりこの下孟子諸方を巡行うつて御門人ゟ同じく車にのつて数十乗なり又従者も数百人なうかくの如く大勢なるハいつも諸侯方の食應ありそれ夫うそれへ傳食ふるとハとりもなをさず泰のさくなりしかや孟子ここにあらバ一簞の食も帝ゟ受バ恥なり如まさ道にるふなりバいつかも御位と受バ舜もまさ泰なりしとぞ

以傳食於諸侯不以泰乎

孟子曰非其道則一簞食不可受於人如其道則舜受堯之天下不以爲泰乎

曰否士無事而食不可

彭更曰く後車数十乗従者数百人数百人ゟて諸侯ゟ傳食を以ぞ泰不乎孟子の曰く其道ゟ非ざれバ則ハち一簞の食人ゟ受可うう不其道の如くんバ則ハち舜堯之天下を受も以て泰と為不子以て泰と為乎

曰く否士事無て食まるハ不可なう

曰子不通功易事以羨補不足則農有餘粟女有餘布子如通之則梓匠輪輿皆得食於子於此有人焉入則孝出則悌守先王之道以待後之學者而不得食於子子何尊梓匠輪輿而輕為仁義者哉

今子のゝ処さゝ違ふ通用と云ふ事をゝるのを不足なる処へうと替なふ事をとう易てその功ありて通用もとゝなう若や其の相援ことのなくバ農の家ニハ粟のさゝゝ処るく置どゝろなく羨るゝ女もさゝあり布ハ金あるさに餘を遣べきなう然バ益なきうう吾子ゝりそのぐく通用しくバ是ゝ限を梓匠又ハ輪輿なども吾子にやとハをて口糊食物をも吾子ようゝゝゝ得べきなう又たゝゝて

為者を輕ざう哉

いらゞらに人ある公さにその者孝行ゝて悌順くに先の明王の道を守てるとと学者の正さを願待うの人そも吾子に用らをざれバ梓匠輪輿を尊むとらふりのゝて何ゆゝ仁義と為うのを輕ざる哉とかゝるうの心ハ仁義を國ゝりゝゆるものハ本よう國ゝ争ふるゝてその理ゝなるうの心なう

曰梓匠輪輿其志亦將以求食也

君子之為道也其志亦將以求食與曰子何以其志為哉其有功於子可食而食之矣且子食志乎食功乎曰食志

壺更又曰く梓匠輪輿ハ始より其志ゝ利を求めて食を求むるの志ゝなうやとなう子孟子答のあハ子何ゆゝ志ゝの処ゝて論るやとなう子孟子答のあハ子何ゆゝ志ゝのりのゝ勤る功の有毎ゝてゝて食て

曰く人此よ有瓦と毀瓦を畫て其志ざー將よ以て食と求めんと將則ハち子之よ食むる平曰く否曰く然らハ則ハち子志ざーホ食ーもるゝ非ざ功よ食ーむなり

萬章問て曰く宋ハ小國なり今將よ王政を行ふと將齊楚惡ざ之を伐ハ則之を如何

孟子の曰く湯亳よ居葛與鄰為葛伯放ーこゝ祀ら不湯人を使之を問て曰く何為ぞ祀ら不曰く以て犧牲よ供ら無湯之よ牛羊を遺ら使葛伯之と食ふ又以て祀ら不湯又人と使之を問て曰く何為ぞ祀ら不曰く以て粢盛よ供ら無湯亳の衆を使往て之が為よ耕を

王道仁義と施ーて民を懷く道なるとき齊楚ようり權勢の強なるんっと悪てもめ伐ハ則ち如之何ぞんや

孟子曰湯居亳與葛爲鄰葛伯放而不祀湯使人問之曰何爲不祀曰無以供犧牲也湯使遺之牛羊葛伯食之又不以祀湯又使人問之曰何爲不祀曰無以供粢盛也湯使亳衆往爲之耕

孟子對ふ曰ー湯王の諸侯ふて亳と都た居ふ時りつる小國ふて隣國ハ葛とふ國ハ葛とふ夷なりかの夷の主葛伯放恣ふて已が先祖の祀をも為ざ湯王ふれと憂たりそふて人ー向て曰く何ぬー祀ざるや葛伯こふて曰く供の犧牲なれ沙ふり湯ふれを聞て牛羊を遺ーむ中華ふそハ供の牲ふそ常よ潔きりのを以て養ふひ錦の衣ハなど

うるなり吾子の為にべきの理ふて食を得さらなり吾子ハ志ざーた食ーもるをあふく心なりや又功ふ食ーもるの心なりや彰更ぎ曰く志にて食ーもるえ曰有人於此毀瓦畫墁其志將以求食也則子非食志也食功也之乎曰否曰然則子非食志也食功也

孟子ようて說示て曰く屋上の瓦を毀ちて畫墁の上飯ふらく畫ゐどらざーて其ふ志ざーハその所為をなーゐくふ食ハざーと吾子之をも食くんやいふ

彰更が曰く中く然ハ則ち吾子ふ志ーふ食ーもるホハあらざーと勤功あるた食ーもるうとぞ

○萬章問曰宋小國也今將行王政齊楚惡而伐之則如之何

放章問宋の國甚ざ尭生の如く

老弱ハ食ト饋ル葛伯其民ヲ率テ其酒食黍稻有者ヲ要シテ之ヲ奪授不者之ト殺ス童子有黍肉ヲ以テ餉ヲ殺シテ之ヲ奪書ヲ曰ク葛伯餉ヲ仇ヲ殺ス此之謂ソウシテ征ヲ其ハ是童子ト殺ス為ニ

老弱饋食葛伯率其民要其有酒食黍稻者奪之不授者殺之有童子以黍肉餉殺而奪之書曰葛伯仇餉此之謂也

さすら事なるハ然ル葛伯その贈りのと郎うう食尽てまゝ祀ざ湯王もと問て曰く何為に祀ざるぞや又答て曰く粢盛に供ゆる黍稻なればゆゑうと之ル倣て湯又亳の丧人を連往てかの夷の田地を耕さーめうよとなう

稻者奪之不授者殺之有童子以黍肉餉殺而奪之書曰葛伯仇餉此之謂也

さて血気の若者小ハ田地を耕さーめ老る者弱うる死者うハその食事行厨を持セ遺しむ然ル葛伯おのが民のあざ老者を率つ至て其酒黍稻等の食りのを持ーものを要そめて奪とう授ざうハこれを殺してうばひくり

中うる憐なるハ一人の童子黍の飯と肉とを餉きそうし中を切害ーて大奪ふる是を書経ーる書記ーて葛伯の仇をかもー悪逆ハ此童子と殺セー少へかうとぞ

為其殺是童子而征

四海之内皆曰天下ヲ富ルニ非ズ富天下也為匹夫匹婦ノ為ヨ讎ヲ復ル也

四海之内皆曰非富天下也為匹夫匹婦復讎也

さて湯王いうセうひて師を出ーうふも是童子の為ル征伐を始うひーと天下をそーんとう富貴にハを拠うひーくなく匹夫匹婦の讎を復うふーくなう

之西海之内皆曰非富天下也為匹夫匹婦復讎也

葛載十一征而無敵於天下東面而征西夷怨南面而征北狄怨曰奚為後我民之望之若大旱之望雨也

葛載十一征而無敵於天下東面而征西夷怨南面而征北狄怨曰奚為後我民之望之若大旱之望雨也

葛伯の事ハ天下自ちんと湯王の始ての征伐ハ元来葛伯の事

歸市者弗止芸者不變誅其君弔其民大悦書曰後我后來其

歸市者弗止芸者不變誅其君弔其民大悦書曰後我后來其

如時雨降民大悦書曰後我后來其

如時雨降民大悦書曰後我后來其

無罰

無罰

此時遂に天下の戦となりて湯王の御代となうーと

帝嚳以て其小人を迎民を水火之中より救ふ其殘を取已

太誓曰く我武惟揚之が彊を侵せども則ち殘を取殺伐用て張湯より于て光有

弗を時雨の降るが如し民大に悅ぶ書に曰く我后を俟后来ば其罰無

臣為不攸有東征綏厥士女匪厥玄黄紹我周王見休惟臣附大邑周亦匪附其君子ハ玄黄を匪ず實て以て其君子と迎ふ其小人ハ簞食壺漿以て其小人を救ふ

民於水火之中取其殘而已矣

此殷周の武王の事をのべ武王の天下をうけ給ふ事なるべしとぞ十七ケ所帰服せざるもの者あらば武王東へ征ゆき其徳を慕ひ其物を放免なさるゝ事なるべしその文の縦横なるを以て皆ひてよう王の徳を推綏んじ

王政を行なハ不再云苟も王政を行ハ四海之内皆首を擧て之を望人以て君と為んと欲ス齊楚大と雖ども何ぞ畏るゝに足らん

孟子戴不勝ニ謂て曰く子子之王を善を欲する與我明らかに子ニ告ん其子之齊語を欲する則ち齊人と傅ん使諸楚人を傅ん使人譖之を雖日撻而求其齊也不可得矣引而置之莊嶽之間數年雖日撻而求其楚亦不可得矣孟子宋の臣戴不勝ニ謂て曰く子子主君の善心を欲するや我明らかに子ニ告ん子の齊の語を習ハしむるに齊人を抱ゆるに如を然ル人の齊人を置て傍ニ楚の語を撻さしむるを時ハ如何ん其子を撻さしむるを得ること不可なり夫齊の街里の壯嶽と云ふ所なり置育て數年の日を送らバ雖ども之を楚の語をいふことを求めても得べからざるのみや齊の風にうつるべきのみや

子謂薛居州善士也使之居於王所在於王所者長幼卑尊皆薛居州也王誰與爲不善在王所者長幼

かの殘賊りのと取ゝ悪人を殺し被りのを代て武威を張ようハ中く湯王に比べてハ光ありとく其上たる不行王政云爾苟も行王政四海之内皆擧首而望之欲以爲君齊楚雖大何畏焉（今宋ハ王政を行ふべきこと再た云ふも首を擧てうごきいづるも君と仰んと望王と明うたく兩國大なりとも畏るゝこと有ことなし）

○孟子謂戴不勝曰子欲子之王之善與我明告子。有楚大夫於此欲其子之齊人傅諸使楚人傅諸曰一齊人傅之衆楚人咻之雖日撻而求其齊也不可得矣引而置之莊嶽之間數年雖日撻而求其楚亦不可得矣（孟子宋の臣戴不勝ニ謂て曰く子子主君の善心を欲するや我明らかに子ニ告ん子の齊の語を習ハしむるに齊人を抱ゆるに如を然ル人の齊人を置て傍ニ楚の語を撻さしむるを時ハ如何ん其子を撻さしむるを得ること不可なり夫齊の街里の壯嶽と云ふ所なり置育て數年の日を送らバ雖ども之を楚の語をいふことを求めても得べからざるのみや齊の風にうつるべきのみや）

子謂薛居州善士也使之居於王所者長幼卑尊皆薛居州也王所者長幼

卿なう王誰と與
に不善と為王の
所に在者長幼
卑尊皆薛居州
に非されハ王誰と與
善と為一の薛居州
獨宋王と如何

公孫丑問て曰く
諸侯を見不何
の義我そ孟子の曰
く吾一人ハ臣と
不ハ見へ不
段干木ハ垣と踰
李克池柳ハ門を
閉て内不是皆
已甚し迫るも

卑尊皆非薛居州也王誰與爲善一薛
居州獨如宋王何（右の類そ子今薛居州ハ善
士なりとて王の傍に居らバ
意旨ようさまでなりなくも卑尊ともに薛氏
の如なくバ王も不善身の持や
うすくなと若且一人も薛氏のやうにあくバ王も又誰を
見なくしてり善身りうと為べんや本より一人の薛氏

○公孫丑問曰不見諸侯何義孟子曰
古者不爲臣不見（公孫丑問諸侯へ見ゆかざるとハ
如何の義なるそや御答古へハ
事うる臣なくで、ハ
見へ奉まつるそ）段干木踰垣而辟之泄柳
閉門而不內是皆已甚迫斯可以見矣

斯ゟ以て見可

陽貨孔子に見
つんと欲を而て礼
無を悪む大夫士
ゟ賜こ有其家
に受ることを得不
則ち往て其門
ゟ拜ゟ陽貨
子之亡と瞰て而
て孔子ゟ蒙る
豚を饋る孔子も
亦其亡と瞰て而
て往て之を拜
を是時ゟ當て陽
貨先ろ豈見不と

（魏の君文公段干木が名あるを聞てその家こ
至のひ〳〵に垣をまもてその家こ
客へ至うたれバを閉て
〳〵振舞とやうむさ
べきこと理に
當まろ）陽貨欲見孔子而惡無禮大
夫有賜於士不得受於其家則往拜其
門陽貨瞰孔子之亡也而饋孔子蒸豚
孔子亦瞰其亡也而往拜之當是時陽
貨先豈得不見（むら〳〵陽貨聖人ろ見んと欲ど
も人そ〳〵已と金祕にいろむ事を
悪てろ〳〵ろづき礼儀に大夫ろ人へ物を賜ハり
家に有合さん其使ろ受ることを得ざるそ〳〵
ときハ先方へろ〳〵ろて吾礼いくらぶべ〳〵とある依て聖人の
内そ亡と窃び瞰て蒸る豚の肉を饋つろハ〳〵ろ故

得んや曾子曰く脅肩諂笑病于
夏畦子路曰く未同而言觀其色赧赧然
非由之所知也由是觀之則君子之所
養可知已矣曾子も兼ての我常に人と
見ゑとらつことを得ゝくゝとも
聖人もすこし陽貨の内ゝ立時を求て狼狽た程の
ことなり是ハこれ陽貨よう礼を始め先ゞてゝなるとハ
曾子曰脅肩諂笑病于
夏畦子路曰未同而言觀其色赧赧然
非由之所知也由是觀之則君子之所
養可知已矣曾子も兼ての我常に人と
見てハこゝろ苦く汗をもらす如くに覚てきのどくなう又子路の
曰く凡そ人の諂ひあるものハ己が志ゝと同ゝかゝることに
取合て言らふことあり其人の面色を見るに付てハ気の毒ゝ
て赧赧然ゝとさゝ甚ゞ見苦く手前の存知よる事
たあゝゞとそつゝく悪さる詞なく由ハ子路の名なり
事た由て観ハ君子心を堅め徳を養ゝと見るべゝゝえ
諸侯ゝまゝゆるとあるべゝゞ

戴盈之曰く什一ゝして関市之征を去今茲未だ能ハ未請之を輕くして来年を待て然後已ハ何如
孟子の曰く今人日ゝ其鄰之雞を攘者有人或ひとゝ之ゝ告て曰く是君子の道ゝ非ざ曰く請之を損ゝて月ゝ一雞を攘ゝて来年を待て然ゝて後已ん如其義ゝ已ゝ知ぬ請ゝ速に已ん如其義ゝ

○戴盈之曰什一ゝ大公関市之征今茲未
已請輕之以待来年然後已何如
孟子曰今有人日攘其鄰之雞者或告
之曰是非君子之道曰請損之月攘一
雞以待来年然後已如知其非義斯速
已矣何待来年孟子これを譬ゝて毎日鄰の家雞をぬすゝて
攘者あるゝ一或人ありて是君子の道ならゝとその
者らゝへて曰くさあらバ請くハ今ようゝ之を損て月ゝ一を

正德集箱藏

非ざると知バ斯ち速ふ已ん何ぞ来年を待ん

公都子曰く外人皆夫子辯を好むと辨ず敢て何ぞ

孟子の曰く予豈辯を好まんや予不得已也

を好む哉予不得已とを得不天下之生

久し一治びバ治まり一乱びバ乱る

堯之時に当て水逆行して中國に

汜濫し蛇龍之に居民定まる所ろ

無下なる者巣と為し上なる者

八営窟を為る

書に曰く洚水余を警む洚水者

洪水なり

禹を使て之を治む禹地を堀て之

を海に注ぐ蛇龍と

驅て之を菹ふ

放つ水地中由行

江淮河漢是也

険阻既に遠く

鳥獣之害

滋き者消て然

後ち人平土を得

て之に居る

洚水警余洚水者洪水也

使禹治之禹掘地而注之海驅蛇龍而放之菹

水由地中行江淮河漢是也險阻既遠

鳥獣之害人者消然後人得平土而居

攘て来年を待ん如ハ何ぞ速に已べきなり何ぞ其の

事あるや

○公都子曰外人皆稱夫子好辯敢問

何也

公都子問ふ外人の夫子ハ辯を

好むと稱する何なるの故ぞや

孟子曰予豈好辯哉予不得已也天下

之生久矣一治一亂

孟子答ふ天下の人の世に生ずる一定の理あり

堯之時水逆行氾濫於中國蛇龍居之民

無所定下者爲巢上者爲營窟書曰

堯の時に当て洪水逆流して氾濫中國に

蛇龍之に居民の住所定まる下なる者ハ巣を為り

上なる者ハ営窟を為て住処と

なす書経に洚水余が心を

戒むとあり洚水ハ洪水の事なり

洚水警余洚水者洪水也

使禹治之

禹王の曰く洪水余が心を

警む洚水ハ洪水の事なり

禹掘地而注之海驅蛇龍而放之菹

水由地中行江淮河漢是也險阻既遠

鳥獣之害人者消然後人得平土而居

禹に命じ地を掘て海へ

注ぎ蛇龍を菹中へ驅逐ひ江淮河漢

の四ツの大河の地中よりまさに流れ

出んとする険阻もまだ遠ざからざる鳥獣の害となる

者を消滅して然る後人平土を得て之に居る

之ハ依て先帝の注ぎなり

堯舜既沒聖人之道衰暴君代作壞宮室以爲汙池民無所安息棄田以爲園囿使民不得衣食邪說暴行又作園囿汙池沛澤多而禽獸至及紂之身天下又大亂

堯舜既沒聖人之道衰暴君代作壞宮室以爲汙池民無所安息棄田以爲園囿使民不得衣食邪說暴行又作園囿汙池沛澤多而禽獸至及紂之身天下又大亂

周公武王相繼

也。滌蕩。平安也。土地。言水去而地可居也。堯舜既沒。言聖人之道雖衰。而暴君繼作。猶未至於大亂也。壞宮室以爲園囿。汙池沛澤。使民不得安息。棄田以爲園囿。使民不得衣食。邪說。詖辭也。暴行。害政也。園囿汙池沛澤多而禽獸至。言民物將盡而禽獸逼人也。及紂之身。天下又大亂。言紂之惡有甚於堯舜之時也。周公武王相繼

紂。誅紂而奄三年討其君驅飛廉於海隅而戮之滅國者五十驅虎豹犀象而遠之天下大悅書曰丕顯哉文王謨丕承哉武王烈佑啓我後人咸以正無缺

紂。誅紂而奄三年討其君驅飛廉於海隅而戮之滅國者五十驅虎豹犀象而遠之天下大悅書曰丕顯哉文王謨丕承哉武王烈佑啓我後人咸以正無缺

世衰道微邪說暴行有

紂。誅紂而奄。滅奄三年。討其君。驅飛廉。飛廉。紂之諛臣。海隅。東方之極。戮。殺也。滅國者五十。皆紂所嬖之諸侯。驅虎豹犀象而遠之。言驅逐此數獸。使遠去也。天下大悅。言天下之人皆悅紂之誅也。書。周書。今逸書。丕。大也。顯。明也。謨。謀也。烈。光也。佑。助也。啓。開也。咸。皆也。正。善也。缺。闕也。言文王之謀大而明。武王之功光而顯。皆能開後人。使皆以善道而無闕也。

世衰道微。邪說暴行。

作臣弒其君者有之子弒其父者有之
一ト通リノ理右ノ如ク一然ニ
世衰ヘ道微ミテ邪ナル說ト法ヲ暴ス
者ゴトニ作アリテ君ヲ弒シ子ニシテ父ヲ弒スルノアリシトナリ孔子懼作
春秋春秋天子之事也是故孔子曰知
我者其惟春秋乎罪我者其惟春秋
乎聖人世ノ如此ナルヲ懼ノヒテ春秋ノ書ヲ
作ルノ春秋ハ君臣父子ノ行ヲ正シク深ク不義
ヲ罪シテ懲ル戒ルヲ以テ天子諸侯大夫
ノ事ナリ是故ニ曰ハク我徳ヲ知モノモ我ヲ罪
スルモノモ春秋ノ書ヲ以テノミナリシトナリ聖王不作諸侯放恣處士
橫議楊朱墨翟之言盈天下天下之

言不歸楊則歸墨楊氏爲我是無君也
墨氏兼愛是無父也無父無君是禽獸
也公明儀曰庖有肥肉廐有肥馬民有
飢色野有餓莩此率獸而食人也楊
墨之道不息孔子之道不著是邪說誣
民充塞仁義也仁義充塞則率獸食
人人將相食

言楊ニ歸セズバ則チ墨ニ歸ス楊氏ハ爲我ニシテ君ヲ無ンジ墨翟氏兼愛
ハ是君無ク父無ク是禽獸也
公明儀曰ク庖ニ肥肉有リ廐ニ肥馬有リ民ニ飢色有リ野ニ餓莩有リ此
獸ヲ率テ人ヲ食フナリ楊墨之道
息ヘ不ルハ孔子之道著ハレ不ルハ邪說民ヲ
誣仁義ヲ充塞ヘバ則チ獸ヲ率ヒ

士ハ各〻己ガ才智ヲ以テ種々ノ說ヲツクリ橫議ナルコト
ドモナリソノ〻ヘル楊朱墨翟ノ言天下ニ入盈ツヽアル依
テ天下ノ人ミナ道ソレヲ言者ニクヘラクベ楊朱ガ風ナリ〇ベ
必ズ墨翟ガ道ナリ歸シ楊子ガ道ハ己ガ身ヲ抱ヘ欲ヲ

吾此ゞ為ゝ懼テ先聖之道ヲ闢キ楊墨ヲ距キ淫辭ヲ放チ邪説ノ者作ルヲ得不其心ニ作テ其事ヲ害ヲ其事ヲ作テ其政ヲ害ヲ聖人復起ルモ吾言ヲ易不

昔禹洪水ヲ抑テ天下平ラカナリ周公夷狄ヲ兼猛獣ヲ駆テ百姓寧シ孔子春秋ヲ成テ乱臣賊子懼ル

詩ニ云ク戎狄是膺荆舒是懲ト則チ我ニ敢テ承ケ莫ケン父無君無キハ是周公ノ膺ル所ナリ

我モ亦人心ヲ正シ邪説ヲ息ヘ詖行ヲ距キ淫辭ヲ放チ

絶トラント方ニシテ身ヲ君ニ委ネント義ヲ軽ンジ是君ヲ無ゥシ為者ナリ墨翟ハ親疎ノ隔ナク父母ヲ愛スルモ人ノ親ヲ愛スルモ心ヲ挙下ナリ是レ父ヲ無ゥスル也父ヲ無ゥスルハ禽獣ナリ公明儀モ曰ク庖ニ肥肉アリ廐ニ肥馬アリ民ニ飢色アリ野ニ餓莩アリ此獣ヲ率テ人ヲ食ハスナリト右楊墨ノ道盛ニ充テ自ラ聖教者ヲ塞ゲバ仁義塞ガルナリ仁義塞ガルハ中ク獣ノ人ヲ食ハントスルノ道ヲ困テ楊墨ヲ距キ淫辭邪説者ヲ放チ邪説人ヲ誣ルヲ作ス

復起不易吾言矣吾此ヲ懼テ先代ノ聖人ノ道ヲ困テ楊墨ヲ距キ淫辭邪説者ヲ放チ邪説人ヲ誣ルヲ作ス

昔者禹抑洪水而天下平周公兼夷狄駆猛獣而百姓寧孔子成春秋而乱臣賊子懼禹洪水ヲ抑テ天下平ラカニシ周公夷狄ヲ兼テ猛獣ヲ駆テ百姓ヲ寧シ孔子春秋ヲ成テ乱臣賊子ヲ懼シム

詩云戎狄是膺荆舒是懲則莫我敢承無父無君是周公所膺也周公夷狄ヲ膺テ荆舒ヲ懲シ無父無君ノ教ヲ敢テ我ニ承ケシメサルハ周公世ニ在ラバ父君ヲ尊ブベキヲ以テナリ

我亦欲正人心息邪説距詖行放淫辭以承三聖者豈好辯哉予

を放ちて三聖者に承んと欲も豈辨を好んん哉予已むことを得ざるなり能言て楊墨を距ぐ者聖人之徒なり

匡章曰く陳仲子豈誠の廉士なるに不哉於陵に居三日食せず耳聞と無く目見と無く井上に李有り蟿實を食者半ば過ぎて而後耳聞目見ると

三ッをそう咽りと蠐虫過半矣匍匐往將食之三

孟子の曰く齊國之士吾必以仲子為巨擘と為然と雖ども仲子惡んぞ能廉ならん仲子之操を充ば則ち蚓うして而後可なる者なり

夫蚓は上槁壤を食下黄泉を飲仲子居所之室伯夷之築く所う與抑く亦盜

不得已也能言距楊墨者聖人之徒也

我も亦人の心を正ふ誠を行を距ぐめ右三聖人の志を承と欲るのなり是に依て已こと得ざるに辯を好の理に當る誠に今の世に生ては楊墨の教をとく言距りのこと聖人の徒うあるべや

○匡章曰陳仲子豈不誠廉士哉居於陵三日不食耳無聞目無見也井上有李蟿食實者過半矣匍匐往將食之三

齊の人匡章の問なる同國の陳仲子ハ誠に廉直の士とうべきや尤て人の心の身に切なるものハ二ツなるに仲子ハ耳と目と貪欲を恥て於陵とう処へ独ごるまり居りて三日ぞう食事せざることありて耳聞と目見

咽然後耳有聞目有見

齊の人匡章の問なる同國の陳仲子

孟子の曰く齊國之士吾必以仲子為巨擘雖然仲子惡能廉充仲子之操則蚓而後可者也

君子人を誹譏ること無く然ども行狀を人う問ときハ明うて吾ざまバ人の教訓に害あるまバかくハ論ふことなう依て吾て曰く今の齊の諸士のうち一日之ものハさうそれハ巨擘うべし臣擘とハ手の大指うて餘人を見の指ふ比ふる者なう然ども直の廉直

夫蚓は上槁壤下食黄泉飲仲子所居之室伯夷之所築與所食之粟伯夷之所築與抑亦盜跖之所築與所食之粟伯夷之

所樹與抑亦盜跖之所樹與是未可知也何以
なる人の築所ぞ其の人なさゝその食ひ物ハ
いかゞまこと跖が樹とやらん是理未ざ知可
如くなるぞや曰仲子齊之世家也兄戴
織屨妻辟纊以易之也匡章又曰是式にて
身ハ屨を織り妻ハ纊糸を辟て衣服をなり外
貪ることなくこれと易て食物をとゝのふ
直なること伯夷の
蓋祿萬鍾以兄之祿爲不義之祿而不
食也以兄之室爲不義室而不居也辟
兄離母處於於陵他日歸則有饋其
兄生鵝者已頻顧曰惡用是鶃鶃者爲
哉他日其母殺是鵝也與之食之其兄
自外至曰是鶃鶃之肉也出而哇之
孟子又説ふ仲子ハ不義なりとして食セざる兄の
の家なり兄の戴蓋ハ於陵の生鵝のとゝと饋りのなり仲子ハ
之祿と爲食不食
之室とゐて不義
之室と爲居不義
兄を辟母を離
て於陵よ處
他日歸ふ則ハち
其兄よ生る鵝と
饋る者有已頻
顧して曰く惡えぞ
是鶃鶃の者を
用て爲哉他日其
母是鵝を殺し
て之を與て之を
食しむ其兄外
自至る曰く是鶃
鶃之肉なり出
て之を哇

母と以てともまバ則ハち食セ不妻を以てともれバ則ハち之と食を兄之室を以てともれバ則ハち居弗於陵を以てともれバ則ハち之と居是尚能其類と云と爲乎仲子の若き者ハ而して後ち其操と充る者なり

食以妻則食之以兄之室則弗居以於陵則居之是尚爲能充其類也乎若仲子者充其操者也

ようおそらがゆへなり鵝々とハ鵝のごく哀るう又他日其母是鳥を烹てともて食セ不めようと與て食セ令むるに兄戴盖夕より歸て曰くこれハ過ー日の鳥の肉なりとらへバ之を聞て哇出セ令とこと

兄の家ニハ食セ令とまゝて已が家ニ在て妻の供をバ食セ令ざるハ居宅をなり是操節を充分に守の類といふんや是故ニそ蚓ニなりて於陵なるまバ居宅をなり是比ニくてなるニバ廉直なること同位なるんやまた操節を充るのといふんや

孟子卷之二畢